

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第6147506号
(P6147506)

(45) 発行日 平成29年6月14日(2017.6.14)

(24) 登録日 平成29年5月26日(2017.5.26)

(51) Int.Cl. F 1
E O 4 B 2/74 (2006.01) E O 4 B 2/74 5 4 1 B
E O 4 B 2/00 (2006.01) E O 4 C 2/46 L

請求項の数 11 (全 34 頁)

(21) 出願番号	特願2013-1270 (P2013-1270)	(73) 特許権者	000223344
(22) 出願日	平成25年1月8日(2013.1.8)		株式会社トーマ
(65) 公開番号	特開2014-133992 (P2014-133992A)		奈良県大和高田市東雲町13番4号
(43) 公開日	平成26年7月24日(2014.7.24)	(74) 代理人	100079577
審査請求日	平成27年11月4日(2015.11.4)		弁理士 岡田 全啓
		(72) 発明者	当麻 和重
			奈良県大和高田市東雲町13番4号 株式
			会社トーマ内
		審査官	佐藤 美紗子
		(56) 参考文献	特開2011-089360 (JP, A)
)
			特開2004-307162 (JP, A)
)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 間仕切り棚及びその施工方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚であって、
 前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地側の地固定部とを有し、

前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、

棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、

更に、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材を備え、

前記化粧棚受部材は、前記合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための前記連結部又は連結材が突設され、

柱部材と化粧棚受部材とを連結したときに、前記連結部又は連結材は、柱部材及び化粧棚受部材によって被覆される、間仕切り棚。

【請求項2】

10

20

左右一对の柱部材と、前記一对の柱部材の間に架け渡される、棚部材とを備え、
前記棚部材は、柱部材に対向する対向部を、柱部材の合わせ面部に突き合わせられ、
柱部材の天側から地側に適宜な空間をおいて設けられた複数の棚部材の間に、化粧棚受部材を垂設された、請求項 1 に記載の間仕切り棚。

【請求項 3】

前記柱部材は、連結材及び／又は棚受け具及び／又は柱部材固定具を収容するための凹条部を、長手方向に、合わせ面部に形成された、請求項 1 又は請求項 2 に記載の間仕切り棚。

【請求項 4】

前記化粧棚受部材は、合わせ面部に、柱部材の合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための連結材が突設された、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の間仕切り棚。

10

【請求項 5】

前記柱部材及び化粧棚受部材は、
横断面形状が略々同じである柱状体であり、
それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、一体化された柱状体を形成するように構成された、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の間仕切り棚。

【請求項 6】

前記柱部材及び化粧棚受部材は、
平面状の合わせ面部と、前記合わせ面部と直交する正面部とを備え、
それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、それぞれの正面部は、並列されて平面状に形成された、請求項 1 ないし請求項 5 のいずれかに記載の間仕切り棚。

20

【請求項 7】

前記棚部材は、天側の平面状物品載置面と地側の平面状裏面とを有する角柱状体であって、

前記物品載置面と裏面との間に直交する対向部と、
前記物品載置面における対向部に続く面に、棚部材支持部を形成され、
前記裏面における対向部に続く面に、被支持部を形成された、請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の間仕切り棚。

30

【請求項 8】

前記柱部材及び化粧棚受部材は、柱状芯材の外表面に、折曲溝が形成された表面部材を、折曲溝を閉じる方向に屈曲させて前記柱状芯材の角部に合わせて貼着された、請求項 1 ないし請求項 7 のいずれかに記載の間仕切り棚。

【請求項 9】

前記柱部材は、柱状芯材の外表面に、表面板材を貼着されて形成され、
表面板材は、長手端縁が合わせ面部において、対向するように貼着され、表面板材の対向する長手端縁の間に連結材及び／又は棚受け具及び／又は柱部材固定具を収容するための凹条部を形成された、請求項 1 ないし請求項 8 のいずれかに記載の間仕切り棚。

【請求項 10】

前記柱状材は、木質系板状芯材の外表面に金属製補強材を添設され、且つ、前記柱状芯材及び金属製補強材の外表面を覆うように表面板材が貼着された、請求項 1 ないし請求項 9 のいずれかに記載の間仕切り棚。

40

【請求項 11】

柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚の施工方法であって、

前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地側の地固定部とを有し、

前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長

50

手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、

前記化粧棚受部材は、前記合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための連結部又は連結材が突設され、

前記棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、

前記柱部材は、一方の柱部材と他方の柱部材を有し、

前記一方の柱部材と他方の柱部材とを間隔をあけて対向させて、天側の天固定部と地側の地固定部とにおいて架け渡すステップと、

一方の柱部材と他方の柱部材との対向する面に沿って、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材によって、地側から、化粧棚受部材を一方の柱部材及び他方の柱部材に取り付けるステップと、

前記化粧棚受部材の天側に、棚部材の被支持部を当接させ且つ対向部を柱部材の対向する面に当接させて、棚部材を柱部材に取り付けるステップとを含む、間仕切り棚の施工方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、間仕切り棚及びその施工方法に関し、特に例えば、建築物の内部に設けられる間仕切りのための間仕切り棚及び建築物の内部に間仕切り棚を設ける施工方法に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、棚板を備える収納間仕切りが、提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開平7-197569号公報

【特許文献2】特開平8-189114号公報

【特許文献3】特開平10-280667号公報

【特許文献4】特開2009-256936号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1ないし4の間仕切りは、取り付け部材をもって、支柱に棚板を取り付けたり、支柱の一部に切り欠きを設けて棚板を引っ掛けたりする構造を備えている。

そのために、見映えの悪い間仕切りとなり、特に、かかる間仕切りは、建築物の室内の装飾等と違和感を与える構造となっている。

棚板を備えた間仕切りは、飾り棚を兼ねたりするので、見映えの良いものが望まれている。

それゆえに、この発明は、かかる事情に鑑み、見映えの良い間仕切り棚及び見映えの良い間仕切り棚の施工方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

この発明の請求項1にかかる間仕切り棚は、柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚であって、

前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地

10

20

30

40

50

側の地固定部とを有し、

前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、

棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、

更に、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材を備え、

前記化粧棚受部材は、前記合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための前記連結部又は連結材が突設され、

柱部材と化粧棚受部材とを連結したときに、前記連結部又は連結材は、柱部材及び化粧棚受部材によって被覆される、間仕切り棚である。

この発明の請求項 2 にかかる間仕切り棚は、左右一对の柱部材と、前記一对の柱部材の間に架け渡される、棚部材とを備え、前記棚部材は、柱部材に対向する対向部を、柱部材の合わせ面部に突き合わせられ、柱部材の天側から地側に適宜な空間をおいて設けられた複数の棚部材の間に、化粧棚受部材を垂設された、請求項 1 に記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 3 にかかる間仕切り棚においては、前記柱部材は、連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部を、長手方向に、合わせ面部に形成された、請求項 1 又は請求項 2 に記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 4 にかかる間仕切り棚においては、前記化粧棚受部材は、合わせ面部に、柱部材の合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための連結材が突設された、請求項 1 ないし請求項 3 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 5 にかかる間仕切り棚においては、前記柱部材及び化粧棚受部材は、横断面形状が略々同じである柱状体であり、それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、一体化された柱状体を形成するように構成された、請求項 1 ないし請求項 4 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 6 にかかる間仕切り棚においては、前記柱部材及び化粧棚受部材は、平面状の合わせ面部と、前記合わせ面部と直交する正面部とを備え、それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、それぞれの正面部は、並列されて平面状に形成された、請求項 1 ないし請求項 5 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 7 にかかる間仕切り棚においては、前記棚部材は、天側の平面状物品載置面と地側の平面状裏面とを有する角柱状体であって、前記物品載置面と裏面との間に直交する対向部と、前記物品載置面における対向部に続く面に、棚部材支持部を形成され、前記裏面における対向部に続く面に、被支持部を形成された、請求項 1 ないし請求項 6 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 8 にかかる間仕切り棚においては、前記柱部材及び化粧棚受部材は、柱状芯材の外表面に、折曲溝が形成された表面部材を、折曲溝を閉じる方向に屈曲させて前記柱状芯材の角部に合わせて貼着された、請求項 1 ないし請求項 7 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 9 にかかる間仕切り棚においては、前記柱部材は、柱状芯材の外表面に、表面板材を貼着されて形成され、表面板材は、長手端縁が合わせ面部において、対向するように貼着され、表面板材の対向する長手端縁の間に連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部を形成された、請求項 1 ないし請求項 8 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

この発明の請求項 10 にかかる間仕切り棚においては、前記柱状材は、木質系板状芯材の外表面に金属製補強材を添設され、且つ、前記柱状芯材及び金属製補強材の外表面を覆うように表面板材が貼着された、請求項 1 ないし請求項 9 のいずれかに記載の間仕切り棚である。

10

20

30

40

50

この発明の請求項 1 1 にかかる間仕切り棚の施工方法は、柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚の施工方法であって、

前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地側の地固定部とを有し、

前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、前記化粧棚受部材は、前記合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための連結部又は連結材が突設され、

10

前記棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、

前記柱部材は、一方の柱部材と他方の柱部材を有し、

前記一方の柱部材と他方の柱部材とを間隔をあけて対向させて、天側の天固定部と地側の地固定部とにおいて架け渡すステップと、

一方の柱部材と他方の柱部材との対向する面に沿って、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材によって、地側から、化粧棚受部材を一方の柱部材及び他方の柱部材に取り付けるステップと、

20

前記化粧棚受部材の天側に、棚部材の被支持部を当接させ且つ対向部を柱部材の対向する面に当接させて、棚部材を柱部材に取り付けるステップとを含む、間仕切り棚の施工方法である。

【発明の効果】

【0006】

この発明によれば、見映えの良い間仕切り棚及び見映えの良い間仕切り棚の施工方法を提供することができる。

請求項 1 の発明によれば、柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚であって、前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地側の地固定部とを有し、前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、更に、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材を備え、柱部材と化粧棚受部材とを連結したときに、連結部又は連結材は、柱部材及び化粧棚受部材によって被覆されるので、見映えの良い間仕切り棚を得ることができる。

30

40

請求項 2 の発明によれば、左右一对の柱部材と、前記一对の柱部材の間に架け渡される、棚部材とを備え、前記棚部材は、柱部材に対向する対向部を、柱部材の合わせ面部に突き合わせられ、柱部材の天側から地側に適宜な空間をおいて設けられた複数の棚部材の間に、化粧棚受部材を垂設されているので、柱部材と化粧棚受部材とにより表面の見映えが良く、堅固に棚部材を固定できる。

請求項 3 の発明によれば、前記柱部材は、連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部を、長手方向に、合わせ面部に形成されているので、連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を柱部材及び化粧棚受部材により覆うことができる。

請求項 4 の発明によれば、前記化粧棚受部材は、合わせ面部に、柱部材の合わせ面部に

50

形成された凹条部に嵌合されるための連結材が突設されているので、柱部材に容易に取り付けることができる。

請求項 5 の発明によれば、前記柱部材及び化粧棚受部材は、横断面形状が略々同じである柱状体であり、それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、一体化された柱状体を形成するように構成されているので、見映えの良い間仕切り棚を得ることができる。

請求項 6 の発明によれば、前記柱部材及び化粧棚受部材は、平面状の合わせ面部と、前記合わせ面部と直交する正面部とを備え、それぞれの合わせ面部を接し合わせて連結されたとき、それぞれの正面部は、並列されて平面状に形成されているので、見映えの良い間仕切り棚を得ることができる。

請求項 7 の発明によれば、前記棚部材は、天側の平面状物品載置面と地側の平面状裏面とを有する角柱状体であって、前記物品載置面と裏面との間に直交する対向部と、前記物品載置面における対向部に続く面に、棚部材支持部を形成され、前記裏面における対向部に続く面に、被支持部を形成されているので、柱部材に堅固に固定できる。

請求項 8 の発明によれば、前記柱部材及び化粧棚受部材は、柱状芯材の外表面に、折曲溝が形成された表面部材を、折曲溝を閉じる方向に屈曲させて前記柱状芯材の角部に合わせて貼着されているので、美しい柱部材及び化粧棚受部材を製造できる。

請求項 9 の発明によれば、前記柱部材は、柱状芯材の外表面に、表面板材を貼着されて形成され、表面板材は、長手端縁が合わせ面部において、対向するように貼着され、表面板材の対向する長手端縁の間に連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部を形成されているので、製造が比較的容易である。

請求項 10 の発明によれば、前記柱状材は、木質系板状芯材の外表面に金属製補強材を添設され、且つ、前記柱状芯材及び金属製補強材の外表面を覆うように表面板材が貼着されているので、堅固で美しい柱部材を得ることができる。

請求項 11 の発明によれば、柱部材と、柱部材に取り付けられる棚部材とを備える間仕切り棚の施工方法であって、前記柱部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、化粧棚受部材と合わせられる合わせ面部と、長手方向における天側の天固定部と、長手方向における地側の地固定部とを有し、前記柱部材に取り付けられる化粧棚受部材は、長手方向にのびる正面部と、正面部に隣接して形成され、前記柱部材の合わせ面部に合わせられる合わせ面部と、前記柱部材の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材を支持する棚支持部とを有し、地側の棚部材の棚部材支持部と天側の棚部材の被支持部との間に亘って立設されるように形成され、前記化粧棚受部材は、前記合わせ面部に形成された凹条部に嵌合されるための連結部又は連結材が突設され、前記棚部材は、柱部材に対向する対向部と、前記化粧棚受部材の棚支持部によって支持される被支持部と、前記被支持部とは反対側に形成される、棚部材支持部とを有し、前記柱部材は、一方の柱部材と他方の柱部材を有し、前記一方の柱部材と他方の柱部材とを間隔をあけて対向させて、天側の天固定部と地側の地固定部とにおいて架け渡すステップと、一方の柱部材と他方の柱部材との対向する面に沿って、柱部材の合わせ面部と化粧棚受部材の合わせ面部とを合わせて、柱部材と化粧棚受部材とを連結する連結部又は連結材によって、地側から、化粧棚受部材を一方の柱部材及び他方の柱部材に取り付けるステップと、前記化粧棚受部材の天側に、棚部材の被支持部を当接させ且つ対向部を柱部材の対向する面に当接させて、棚部材を柱部材に取り付けるステップとを含むので、見映えの良い間仕切り棚を得ることができる。

【 0 0 0 7 】

この発明の上述の目的、その他の目的、特徴及び利点は、図面を参照して行う以下の発明を実施するための形態の説明から一層明らかとなる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】この発明の一実施の形態である間仕切り棚の斜視図解図である。

【図 2】図 1 図示間仕切り棚の正面図解図である。

10

20

30

40

50

【図 3】この発明にかかる間仕切り棚を天井面及び床面に取り付けた状態を示す横断面図である。

【図 4】この発明にかかる間仕切り棚の柱部材の横断面図解図であり、(A)は製作過程の図であり、(B)は完成した図である。

【図 5 A】表面板材の製作過程を示す斜視図解図である。

【図 5 B】表面板材の製作過程を示す斜視図解図である。

【図 6】柱板材の製作過程を示す斜視図解図である。

【図 7】この発明にかかる間仕切り棚の化粧棚受部材の横断面図解図であり、(A)は製作過程の図であり、(B)は完成した図である。

【図 8 A】化粧棚受部材の製作過程を示す斜視図解図である。

10

【図 8 B】化粧棚受部材の製作過程を示す斜視図解図である。

【図 9】化粧棚受部材の斜視図解図である。

【図 10 A】この発明にかかる間仕切り棚の柱部材を天井面及び床面に取り付けた状態を示す斜視図解図である。

【図 10 B】この発明にかかる間仕切り棚の柱部材を天井面及び床面に取り付けた状態を内面の方向から見た図解図である。

【図 11】この発明にかかる間仕切り棚の施工過程を示す分解斜視図解図である。

【図 12】この発明にかかる間仕切り棚の施工過程を示す分解斜視図解図である。

【図 13】この発明にかかる間仕切り棚の施工過程を示す分解斜視図解図である。

【図 14】この発明にかかる間仕切り棚の施工過程を示す分解斜視図解図である。

20

【図 15】この発明にかかる間仕切り棚の他の実施の形態を示す正面図解図である。

【図 16】この発明にかかる間仕切り棚の他の実施の形態を示す正面図解図である。

【図 17】図 1 に示す柱板材の変形例たる柱部材の断面図解図である。

【図 18】この発明にかかる間仕切り棚の施工過程を示す分解断面図解図である。

【図 19 A】この発明にかかる間仕切り棚の柱部材の他の実施の形態を示す斜視図解図である。

【図 19 B】この発明にかかる間仕切り棚の柱部材の他の実施の形態を示す図解図であり、(A)は横断面図解図であり、(B)は斜視図解図である。

【図 20】棚部材を示す図解図であり、(A)は横断面図解図であり、(B)は斜視図解図である。

30

【図 21】図 1 に示す柱部材の変形例たる柱部材を示す図解図であり、(A)は横断面図解図であり、(B)は斜視図解図である。

【図 22】図 1 に示す柱部材の変形例たる柱部材を示す図解図であり、(A)は横断面図解図であり、(B)は斜視図解図である。

【図 23】この発明の間仕切り棚の説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

間仕切り棚 10 は、複数の第 1 柱部材 12 及び第 2 柱部材 14 を室内の天側の天井面 900 と地側の床面 902 との間に架け渡され、第 1 柱部材 12 と第 2 柱部材 14 との間に架け渡された棚部材 16 を、第 1 柱部材 12 及び第 2 柱部材 14 によって支持する構造を備える。

40

第 1 柱部材 12 と第 2 柱部材 14 とは、左右対称に、天井面 900 と床面 902 との間において設けられる。

間仕切り棚 10 は、建築物の室内の化粧間仕切り等に利用される。

【0010】

第 1 柱部材 12 と第 2 柱部材 14 との間の空間に跨って取り付けられる棚部材 16 は、第 1 柱部材 12 と第 2 柱部材 14 との間に、適宜な間隔をおいて、複数段架け渡される。そして、天側の第 1 棚部材 16a と地側の第 2 棚部材 16b との間に物品が載置される。

天側の第 1 棚部材 16a と地側の第 2 棚部材 16b とは、前記地側の第 2 棚部材 16b₁ の地側に、該地側の第 2 棚部材 16b₁ との間に適宜な間隔をおいて地側であるより下方

50

に第2棚部材16b₂を架け渡されるという関係となる。そして、順次複数段の棚部材16が幾重にも形成される関係では、より下方の第2棚部材16b₁に対して天側である上方に位置する前記地側の第2棚部材16b₁が、より下方にある第2棚部材16b₁に対して天側の第1棚部材16aを兼ねる。

【0011】

天側から地側にかけて、第1柱部材12と第2柱部材14との間の空間に、複数段架け渡された棚部材16の間には、第1柱部材12と第2柱部材14とのいずれの内側にも、化粧棚受部材18が垂設されている。

【0012】

第1柱部材12は、長手方向にのびる正面部20と、正面部20に隣接して形成され、化粧棚受部材18と合わせられる合わせ面部22と、長手方向における天側の天固定部24と、長手方向における地側の地固定部26とを有している。

10

第2柱部材14は、前記第1柱部材12と相似形であり、長手方向にのびる正面部40と、正面部40に隣接して形成され、化粧棚受部材18と合わせられる合わせ面部42と、長手方向における天側の天固定部44と、長手方向における地側の地固定部46とを有している。

第1柱部材12及び第2柱部材14は、天側から地側にかけて横断面が同一の形状の、略角柱状体である。

【0013】

合わせ面部22は、第1柱部材12の内側に形成され、合わせ面部42は、第2柱部材14の内側に形成され、合わせ面部22と合わせ面部42とは対向している。

20

この実施の形態においては、第1柱部材12の正面部20は、天側から地側に亘って一様な平面であり、第2柱部材14の正面部40は、前記第1柱部材12の正面部20と同様に、天側から地側に亘って一様な平面である。

第1柱部材12の正面部20の表面と第2柱部材14の正面部40の表面とは、略々同じ形状であって、正面から見て左右同一の垂直面を構成する。

第1柱部材12の合わせ面部22は、正面部20と直交する平面を備え、天側から地側に亘って一様な平面を形成されている。

第2柱部材14の合わせ面部42は、正面部40と直交する平面を備え、天側から地側に亘って一様な平面を形成されている。

30

この実施の形態においては、第1柱部材12は、正面部20とは反対側の背面側に、背面部30を形成され、外側に側面部32を形成されている。

第1柱部材12の背面部30は、正面部20と平行な平面を備え、第1柱部材12の側面部32は、正面部20及び背面部30と直交する平面を備える。

この実施の形態においては、第2柱部材14は、正面部40とは反対側の背面側に、背面部50を形成され、外側に側面部52を形成されている。

第2柱部材14の背面部50は、正面部40と平行な平面を備え、第2柱部材14の側面部52は、正面部40及び背面部50と直交する平面を備える。

【0014】

前記第1柱部材12に取り付けられる第1化粧棚受部材18aは、長手方向にのびる正面部60と、正面部60に隣接して形成され、前記第1柱部材12の合わせ面部22に合わせられる合わせ面部62と、前記第1柱部材12の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材16を支持する天側の棚支持部64及び地側の棚支持部66とを有している。

40

第1化粧棚受部材18aは、天側の第1棚部材16aの被支持部802に接する天側の棚支持部64と、地側の第2棚部材16bの棚部材支持部804に接する地側の棚支持部66とを有し、地側の棚部材16の棚部材支持部804と天側の棚部材16の被支持部802との間に亘って立設されるように形成されている。

天側の棚支持部64は、天側の第1棚部材16aの被支持部802に接し合う平面状に形成され、地側の棚支持部66は、地側の第2棚部材16bの棚部材支持部804に接し

50

合う平面状に形成されている。

【 0 0 1 5 】

前記第 2 柱部材 1 4 に取り付けられる第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、長手方向にのびる正面部 8 0 と、正面部 8 0 に隣接して形成され、前記第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 に合わせられる合わせ面部 8 2 と、前記第 2 柱部材 1 4 の長手方向と交差ないし直交する方向にのびて、棚部材 1 6 を支持する天側の棚支持部 8 4 及び地側の棚支持部 8 6 とを有している。

第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、天側の第 1 棚部材 1 6 a の被支持部 8 1 2 に接する天側の棚支持部 8 4 と、地側の第 2 棚部材 1 6 b の棚部材支持部 8 1 4 に接する地側の棚支持部 8 6 とを有し、地側の棚部材 1 6 の棚部材支持部 8 1 4 と地側の棚部材 1 6 の被支持部 8 1 2 との間に亘って立設されるように形成されている。

10

天側の棚支持部 8 4 は、天側の第 1 棚部材 1 6 a の被支持部 8 1 2 に接し合う平面状に形成され、地側の棚支持部 8 6 は、地側の第 2 棚部材 1 6 b の棚部材支持部 8 1 4 に接し合う平面状に形成されている。

【 0 0 1 6 】

第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 は、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の外側に形成され、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 は、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の外側に形成され、合わせ面部 6 2 と合わせ面部 8 2 とは、反対方向を向いて第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 とに取り付けられる。

この実施の形態においては、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の正面部 6 0 は、天側から地側に亘って一様な平面であり、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の正面部 8 0 は、前記第 1 化粧棚受部材 1 8 a の正面部 2 0 と同様に、天側から地側に亘って一様な平面である。

20

第 1 化粧棚受部材 1 8 a の正面部 6 0 の表面と第 2 化粧棚受部材 1 8 b の正面部 8 0 の表面とは、略々同じ形状であって、正面から見て、左右同一の垂直面を構成する。

第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 は、正面部 6 0 と直交する平面を備え、天側から地側に亘って一様な平面を形成されている。

第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 は、正面部 8 0 と直交する平面を備え、天側から地側に亘って一様な平面を形成されている。

この実施の形態においては、第 1 化粧棚受部材 1 8 a は、正面部 6 0 とは反対側の背面側に背面部 7 0 を形成され、内側に側面部 7 2 を形成されている。

30

第 1 化粧棚受部材 1 8 a の背面部 7 0 は、正面部 6 0 と平行な平面を備え、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の側面部 7 2 は、正面部 6 0 及び背面部 7 0 と直交する平面を備える。

この実施の形態においては、第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、正面部 8 0 とは反対側の背面側に背面部 9 0 を形成され、内側に側面部 9 2 を形成されている。

第 2 化粧棚受部材 1 8 b の背面部 9 0 は、正面部 8 0 と平行な平面を備え、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の側面部 9 2 は、正面部 8 0 及び背面部 9 0 と直交する平面を備える。

【 0 0 1 7 】

前記第 1 柱部材 1 2 は、連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部 2 8 を、合わせ面部 2 2 に形成されている。

凹条部 2 8 は、第 1 柱部材 1 2 の天側から地側にかけて、長手方向にのびる断面コ字形の溝状であり、手前側と向こう側に垂直な平面状溝壁を備える。

40

手前側の溝壁 2 8 a と向こう側の溝壁 2 8 b とは、天側（上）から地側（下）にかけて同一の間隔をおいて対向する。

前記第 2 柱部材 1 4 は、連結材及び / 又は棚受け具及び / 又は柱部材固定具を収容するための凹条部 4 8 を、合わせ面部 4 2 に形成されている。

凹条部 4 8 は、第 2 柱部材 1 4 の天側から地側にかけて、長手方向にのびる断面コ字形の溝状であり、手前側と向こう側に垂直な平面状溝壁を備える。

手前側の溝壁 4 8 a と向こう側の溝壁 4 8 b とは、天側（上）から地側（下）にかけて同一の間隔をおいて対向する。

第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 と第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 とは、前後方向及び上下方

50

向において位置がずれることなく一致して、互いに対向している。

【 0 0 1 8 】

前記化粧棚受部材 1 8 の一方の第 1 化粧棚受部材 1 8 a は、合わせ面部 2 2 に、第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 に形成された凹条部 2 8 に嵌合されるための連結材が突設されている。

この実施の形態においては、第 1 化粧棚受部材 1 8 a は、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 に嵌合して化粧棚受部材 1 8 を第 1 柱部材 1 2 に固定するための、連結材たる嵌合凸部 6 8 を有している。

前記化粧棚受部材 1 8 の他方の第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、合わせ面部 4 2 に、第 2 柱部材 1 4 の合わせ面部 4 2 に形成された凹条部 4 8 に嵌合されるための連結材が突設されている。

10

この実施の形態においては、第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に嵌合して化粧棚受部材 1 8 を第 2 柱部材 1 4 に固定するための、連結材たる嵌合凸部 8 8 を有している。

【 0 0 1 9 】

嵌合凸部 6 8 及び嵌合凸部 8 8 は、ゴム、ウレタン等の柔軟性を有する弾力材により、角柱状に形成されたブロック体である。

第 1 化粧棚受部材 1 8 a の嵌合凸部 6 8 は、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 より突出した突出部を備え、該突出部は手前側の垂直面部 6 8 a と向こう側の垂直面部 6 8 b とを有する。

20

第 2 化粧棚受部材 1 8 b の嵌合凸部 8 8 は、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 より突出した突出部を備え、該突出部は手前側の垂直面部 8 8 a と向こう側の垂直面部 8 8 b とを有する。

嵌合凸部 6 8 は、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 に嵌め込まれると、手前側の垂直面部 6 8 a が手前側の溝壁 2 8 a と密着し且つ向こう側の垂直面部 6 8 b が向こう側の溝壁 2 8 b と密着して弾接される。

第 1 化粧棚受部材 1 8 a が第 1 柱部材 1 2 に固定されると、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 は、第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 に密着する。

嵌合凸部 8 8 は、第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に嵌め込まれると、手前側の垂直面部 8 8 a が手前側の溝壁 4 8 a と密着し且つ向こう側の垂直面部 8 8 b が向こう側の溝壁 4 8 b と密着して弾接される。

30

第 2 化粧棚受部材 1 8 b が第 2 柱部材 1 4 に固定されると、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 は、第 2 柱部材 1 4 の合わせ面部 4 2 に密着する。

第 1 化粧棚受部材 1 8 a は、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 に、連結材たる嵌合凸部 6 8 を嵌め込むと、嵌め込み方向に対して交差する方向に移動することを阻止される。

第 2 化粧棚受部材 1 8 b は、第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に、連結材たる嵌合凸部 8 8 を嵌め込むと、嵌め込み方向に対して交差する方向に移動することを阻止される。

【 0 0 2 0 】

前記第 1 柱部材 1 2 , 第 2 柱部材 1 4 及び化粧棚受部材 1 8 は、横断面形状が略々同じである柱状体であり、それぞれの合わせ面部 2 2 , 合わせ面部 4 2 , 合わせ面部 6 2 及び合わせ面部 8 2 を接し合わせて連結されたとき、一体化された一本の柱状体を形成するように構成されている。

40

【 0 0 2 1 】

前記第 1 柱部材 1 2 , 第 2 柱部材 1 4 及び化粧棚受部材 1 8 は、平面状の合わせ面部 2 2 , 合わせ面部 4 2 , 合わせ面部 6 2 及び合わせ面部 8 2 と、前記合わせ面部 2 2 , 合わせ面部 4 2 , 合わせ面部 6 2 及び合わせ面部 8 2 と直交する正面部 2 0 , 正面部 4 0 , 正面部 6 0 及び正面部 8 0 とを備えている。そして、それぞれの合わせ面部 2 2 , 合わせ面部 4 2 , 合わせ面部 6 2 及び合わせ面部 8 2 を接し合わせて連結されたとき、それぞれの正面部 2 0 , 正面部 4 0 , 正面部 6 0 及び正面部 8 0 は、並列されて平面状に形成されている。

50

更に、第1柱部材12の合わせ面部22及び第2柱部材14の合わせ面部42と化粧棚受部材18の合わせ面部62及び合わせ面部82とを合わせて、第1柱部材12及び第2柱部材14と化粧棚受部材18とを連結する連結部又は連結材を備えている。そして、第1柱部材12及び第2柱部材14と化粧棚受部材18とを連結したときに、連結部又は連結材は、第1柱部材12及び第2柱部材14及び化粧棚受部材18によって被覆される。

【0022】

棚部材16は、第1柱部材12に対向する対向部800と、前記第1化粧棚受部材18aの天側の棚支持部64によって支持される被支持部802と、前記被支持部802とは反対側に形成される、棚部材支持部804とを有している。

棚部材支持部804は、棚部材16の上面(天側)に形成され、被支持部802は、棚部材16の下面(地側)に形成されている。

棚部材16は、第2柱部材14に対向する対向部810と、前記第2化粧棚受部材18bの天側の棚支持部84によって支持される被支持部812と、前記被支持部812とは反対側に形成される、棚部材支持部814とを有している。

棚部材支持部814は、棚部材16の上面(天側)に形成され、被支持部812は、棚部材16の下面(地側)に形成されている。

【0023】

前記棚部材16は、天側の平面状物品載置面と地側の平面状裏面とを有する角柱状体であって、長手方向における一方の端部において前記物品載置面と裏面との間に直交する対向部800と、前記物品載置面における対向部800に続く面に、棚部材支持部804を形成され、前記裏面における対向部800に続く面に、被支持部802を形成されている。

更に、前記棚部材16は、前記対向部800とは反対側である他方の端部において前記物品載置面と裏面との間に直交する対向部810と、前記物品載置面における対向部810に続く面に、棚部材支持部814を形成され、前記裏面における対向部810に続く面に、被支持部812を形成されている。

【0024】

第1柱部材12は、図4ないし図6において示すように、角柱状第1柱状芯材100と、第1柱状芯材100の外表面を覆う第1表面板材102とを有している。

第1表面板材102は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第1表面板材102を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第1柱状芯材100の角部に合わせて貼着される。

第1表面板材102は、平面視方形の板状体であって、その一方の長手端縁104a及び他方の長手端縁104bが合わせ面部22において、対向するように第1柱状芯材100に貼着されている。

一方の長手端縁104aと他方の長手端縁104bは、いずれも、第1表面板材102の表面及び裏面と直交する垂直面を備えており、一方の長手端縁104aと他方の長手端縁104bとの間に、凹条部28が形成される。

一方の長手端縁104aは、手前側の溝壁28aを構成し、他方の長手端縁104bは、向こう側の溝壁28bを構成する。

第2柱部材14は、角柱状第2柱状芯材110と、第2柱状芯材110の外表面を覆う第2表面板材112とを有している。

第2表面板材112は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第2表面板材112を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第2柱状芯材110の角部に合わせて貼着されてなる。

第2表面板材112は、一方の長手端縁114a及び他方の長手端縁114bが合わせ面部42において、対向するように第2柱状芯材110に貼着されている。

一方の長手端縁114aと他方の長手端縁114bは、いずれも、第2表面板材112の表面及び裏面と直交する垂直面を備えており、一方の長手端縁114aと他方の長手端縁114bとの間に、凹条部48が形成される。

10

20

30

40

50

一方の長手端縁 1 1 4 a は、向こう側の溝壁 4 8 b を構成し、他方の長手端縁 1 1 4 b は、手前側の溝壁 4 8 a を構成する。

【 0 0 2 5 】

前記第 1 柱部材 1 2 は、木質系柱又は板で構成される第 1 柱状芯材 1 0 0 の外表面に、剛性を有する金属製補強材 3 0 0 を添設され、且つ、前記第 1 柱状芯材 1 0 0 及び金属製補強材 3 0 0 の外表面を覆うように第 1 表面板材 1 0 2 が貼着されている。

前記第 2 柱部材 1 4 は、木質系板で構成される第 2 柱状芯材 1 1 0 の外表面に、剛性を有する金属製補強材 3 1 0 を添設され、且つ、前記第 2 柱状芯材 1 1 0 及び金属製補強材 3 1 0 の外表面を覆うように第 2 表面板材 1 1 2 が貼着されている。

この実施の形態においては、第 1 柱部材 1 2 の金属製補強材 3 0 0 及び第 2 柱部材 1 4 の金属製補強材 3 1 0 は、断面 L 字形の柱状体である。

金属製補強材 3 0 0 は、平板状の第 1 補強部 3 0 2 と、該第 1 補強部 3 0 2 と直交する第 2 補強部 3 0 4 と、第 1 補強部 3 0 2 と第 2 補強部 3 0 4 との接合部である第 1 角部 3 0 6 を備えている。

第 1 角部 3 0 6 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 の角部と合わされて、金属製補強材 3 0 0 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 の角部の近傍の表面に添設される。

金属製補強材 3 0 0 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 の手前側の角部及び向こう側の角部に、それぞれ添設される。

金属製補強材 3 1 0 は、平板状の第 1 補強部 3 1 2 と、該第 1 補強部 3 1 2 と直交する第 2 補強部 3 1 4 と、第 1 補強部 3 1 2 と第 2 補強部 3 1 4 との接合部である第 1 角部 3 1 6 を備えている。

第 1 角部 3 1 6 は、第 2 柱状芯材 1 1 0 の角部と合わされて、金属製補強材 3 1 0 は、第 2 柱状芯材 1 1 0 の角部の近傍の表面に添設される。

金属製補強材 3 1 0 は、第 2 柱状芯材 1 1 0 の手前側の角部及び向こう側の角部の近傍の表面に、それぞれ添設される。

【 0 0 2 6 】

第 1 柱状芯材 1 0 0 と第 2 柱状芯材 1 1 0 とは、同一の形状に形成され、例えば、剛性を有する、PB (パーティクル・ボード)、MDF (中密度繊維板：メディアム・デンシティ・ファイバーボード)、合板、及び集成材等により形成される。

間仕切り柵 1 0 が施工される際には、第 1 柱状芯材 1 0 0 及び第 2 柱状芯材 1 1 0 のいずれも、それぞれ長手方向における両端部が、例えば、第 1 被固定部たる天側の天井面 9 0 0 及び第 2 被固定部たる地側の床面 9 0 2 に対して当接させて固定される主たる領域を構成する、すなわち、第 1 柱状芯材 1 0 0 の天固定部 2 4 及び地固定部 2 6 並びに第 2 柱状芯材 1 1 0 の天固定部 4 4 及び地固定部 4 6 は、天井面 9 0 0 及び床面 9 0 2 に当接させて固定される平面の主たる領域を構成する。

そして、一方の第 1 柱状芯材 1 0 0 は、その天固定部 2 4 の部分で、天井面 9 0 0 に固定され、第 1 柱状芯材 1 0 0 の地固定部 2 6 の部分で、床面 9 0 2 に固定される。

他方の第 2 柱状芯材 1 1 0 は、その天固定部 4 4 の部分で、天井面 9 0 0 に固定され、第 2 柱状芯材 1 1 0 の地固定部 4 6 の部分で、床面 9 0 2 に固定される。

【 0 0 2 7 】

前記したように、第 1 柱状芯材 1 0 0 及び第 2 柱状芯材 1 1 0 は、同一の形状により構成されることから、ここでは、第 1 柱状芯材 1 0 0 の構成について説明する。

第 1 柱状芯材 1 0 0 は、天側から地側にかけて横断面が同一の形状の略角柱状体に形成される。

第 1 柱状芯材 1 0 0 を形成している略直方体において、例えば、第 1 被固定部たる天側の天井面 9 0 0 と接する一方端側には一方向たる上面 1 2 0 が形成され、及び第 2 被固定部たる地側の床面 9 0 2 と接する他方端側には他方向たる下面 1 2 2 が形成される。これら天固定部 2 4 を構成する上面 1 2 0 及び下面 1 2 2 は、互いに略平行に形成される。

また、第 1 柱状芯材 1 0 0 を形成している該角柱状体において、第 1 表面板材 1 0 2 を接合する面には、第 1 側面 1 2 4 が形成され、第 1 表面板材 1 0 2 を接合する面であって

10

20

30

40

50

、第1側面124とは反対側の面は、合わせ面部22を構成する第2側面126が形成される。これら第1側面124及び第2側面126は、互いに略平行に形成される。

さらに、上面120の両端部から下方向に、かつ垂直方向で、且つ、下面122の両端部から上方向に、かつ垂直方向で、手前側に正面128が形成され、且つ向こう側に背面130が形成される。

正面128は、第1側面124の手前側及び第2側面126の手前側と垂直に接続しており、また、背面130は、第1側面124の向こう側及び第2側面126の向こう側と垂直に接続している。これら手前側の正面128及び向こう側の背面130は、互いに略平行に形成される。

そして、第1柱状芯材100は、上面120から下面122まで、横断面形状が略同一に形成される。

10

【0028】

第1柱状芯材100は、第1側面124の正面128と接する角部の近傍及び第1側面124の背面130と接する角部の近傍に、前記金属製補強材300を添設するための切り欠き段部が形成される。

該切り欠き段部は、金属製補強材300の形状に対応する横断面L字形であって、金属製補強材300の第1補強部302の厚さ分、第1側面124より低く形成されている。

【0029】

第1表面板材102及び第2表面板材112は、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110を保護するとともに、以下に説明するように、第1柱部材12及び第2柱部材14の隅角部に面取り部を設けることにより、第1柱部材12及び第2柱部材14の美感性を高めるように、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の外表面に貼設される。

20

第1表面板材102及び第2表面板材112は、表面及び裏面が平面状の板体であって、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の長手方向における外表面の大部分を覆い被せるように、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の外表面に貼着される。すなわち、第1表面板材102及び第2表面板材112は、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110のそれぞれの第1側面124、第2側面126、正面128及び背面130に貼着される。

【0030】

第1表面板材102は、平面状の表板面102aと平面状の貼着板面102bとを有し、第2表面板材112は、平面状の表板面112aと平面状の貼着板面112bとを有している。

30

貼着板面102bは、第1柱状芯材100に貼着される面であり、貼着板面112bは、第2柱状芯材110に貼着される面である。

【0031】

第1表面板材102は、一方の長手端縁104a及び他方の長手端縁104bを有している。

そして、第1表面板材102は、一方の長手端縁104aと他方の長手端縁104bとが合わせ面部22において、対向するように第1柱状芯材100に貼着されている。

一方の長手端縁104aと他方の長手端縁104bとの間に、凹条部28が形成される。

40

一方の長手端縁104aは、手前側の溝壁28aを構成し、他方の長手端縁104bは、向こう側の溝壁28bを構成する。

第2表面板材112は、一方の長手端縁114a及び他方の長手端縁114bを有している。

そして、第2表面板材112は、一方の長手端縁114aと他方の長手端縁114bとが合わせ面部42において、対向するように第2柱状芯材110に貼着されている。

一方の長手端縁114aと他方の長手端縁114bとの間に、凹条部48が形成される。

一方の長手端縁114aは、向こう側の溝壁48bを構成し、他方の長手端縁114b

50

は、手前側の溝壁 48a を構成する。

【0032】

第1表面板材102及び第2表面板材112は、図4において示すように、表面シート200と、表面シート200の表面に貼着された、第1表面板部140、第2表面板部142、第3表面板部144、第4表面板部146及び第5表面板部148とを有している。

第1表面板材102及び第2表面板材112は、Vカット等されてなる折曲溝によって表面板部を区画されている、第1表面板部140と、第2表面板部142と、第3表面板部144と、第4表面板部146と、第5表面板部148とにより構成される。

第1表面板材102及び第2表面板材112を構成する表面板部は、例えば、剛性を有する、MDF（中密度繊維板：メディアム・デンシティ・ファイバーボード）、PB（パーティクル・ボード）及び合板等により形成される。

10

【0033】

第1表面板部140は、第1柱状芯材100または第2柱状芯材110の第1側面124の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第1表面板部140の手前側に並ぶ第2表面板部142は、第1柱状芯材100または第2柱状芯材110の正面128の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第1表面板部140の向こう側に並ぶ第3表面板部144は、第1柱状芯材100又は第2柱状芯材110の背面130の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第2表面板部142の手前側に並ぶ第4表面板部146及び第3表面板部144の向こう側に並ぶ第5表面板部148は、第1柱状芯材100または第2柱状芯材110の第2側面126の横方向の幅の略々4分の1の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

20

【0034】

第1表面板部140と第2表面板部142との境において、Vカット等を施されて形成された第1折曲溝150が形成される。第1表面板部140と第3表面板部144との境において、Vカット等を施されて形成された第2折曲溝152が形成される。

すなわち、第1表面板材102及び第2表面板材112は、平板板として準備され、それぞれVカット等が施されて形成された溝により区画されることによって、第1表面板部140、第2表面板部142及び第3表面板部144が形成される。

30

【0035】

第1表面板材102及び第2表面板材112における第2表面板部142と第4表面板部146との境には、Vカット加工等を施されて形成された第3折曲溝154が形成される。

また、第1表面板材102及び第2表面板材112における第3表面板部144と第5表面板部148との境には、Vカット加工等を施されて形成された第4折曲溝156が形成される。

第1折曲溝150、第2折曲溝152、第3折曲溝154及び第4折曲溝156は、第1表面板材102及び第2表面板材112の貼着板面102b及び貼着板面112bから表板面102a及び表板面112aの方向に向けて施された、Vカット加工等の切削加工により形成される。

40

【0036】

第1折曲溝150と第4折曲溝156とは同一の構成であり、第2折曲溝152と第3折曲溝154とは同一の構成である。そして、第1折曲溝150及び第4折曲溝156と第2折曲溝152及び第3折曲溝154とは対称である。

そこで、以下において、第1折曲溝150の構成について説明する。

第1折曲溝150は、第1接合溝150a及び第2接合溝150bが対向して連続して横並びに設けられている。

第1接合溝150a及び第2接合溝150bは、断面略V字形状に形成されている。第1接合溝150aは、断面略V字の各一辺を形成する第1溝壁162及び第2溝壁164

50

を有し、第2接合溝150bは、断面略V字の各一辺を形成する第3溝壁166及び第4溝壁168を有している。

【0037】

第2溝壁164及び第4溝壁168は、第1折曲溝150の中間で直交して、略二等辺三角形の第1面取り部170を形成する。そして、第1接合溝150aを閉じて、第1溝壁162と第2溝壁164とを接し合わせて接着し、第2接合溝150bを閉じて、第3溝壁166と第4溝壁168とを接し合わせて接着すれば、第1面取り部170の底辺部分で面取りした形状を構成することができる。

そして、第1表面板部140、第2表面板部142及び第3表面板部144の表板面102a及び表板面112aに表面シート200が貼着されることで、表面シート200に貼着された表面板部(第1表面板部140、第2表面板部142及び第3表面板部144)で構成される、表面シート付き表面板材を外面に備える第1柱部材12が形成される。

10

【0038】

そして、溝底から第1表面板材102及び第2表面板材112の貼着板面102b及び貼着板面112bに向けて延びる第1溝壁162及び第2溝壁164のなす角度(α_1)は、例えば、45度に形成される。また、第1溝壁162及び第2溝壁164と第1表面板材102及び第2表面板材112の表板面102a及び表板面112aとのなす角度(α_1 及び α_2)は、左右それぞれ等しくなるように形成される。

【0039】

第1折曲溝150は、第1溝壁162の上の溝縁162aより第1表面板部140の表板面102aに向けて第1表面板部140の表板面102aと斜交する方向に形成された、第1面取り用溝壁180を有し、且つ第3溝壁166の上の溝縁166aより第2表面板部142の表板面102aに向けて第2表面板部142の表板面102aと斜交する方向に形成された第2面取り用溝壁182とを備える。

20

さらに、第1面取り用溝壁180の上の端縁より表板面102aに向けてのび、第1表面板部140の表板面102aと直交する第3面取り用溝壁184と、第2面取り用溝壁182の溝端側より水平方向に向けてのび、第2表面板部142の表板面102aと平行な第4面取り用溝壁186と、第4面取り用溝壁186の端より表板面102aに向けて表板面102aに直交する方向にのびる第5面取り用溝壁188とを備える。すなわち、第3面取り用溝壁184と第5面取り用溝壁188とは、互いに略平行に形成される。

30

【0040】

第2溝壁164と第4溝壁168とは、第1折曲溝150の中間で、例えば、直交して、断面形状が略二等辺三角形の第1面取り部170を形成する。このとき、第2溝壁164と第4溝壁168とのなす角度(α_3)は、等しくなるように形成され、いずれも、例えば、45度である。

【0041】

第1面取り部170の頂点は、第1溝壁162と第1面取り用溝壁180との交点たる溝縁162a及び第3溝壁166と第2面取り用溝壁182との交点たる溝縁166aとが、第1折曲溝150を閉着したときに交わる。

そして、第1折曲溝150を閉じて、第1面取り用溝壁180と第2面取り用溝壁182、第3面取り用溝壁184と第4面取り用溝壁186、第1表面板部140の貼着板面102bと第5面取り用溝壁188、それぞれを接し合わせて接着すれば、第1面取り部170の底辺部分で、面取りした形状を構成することができる。

40

すなわち、上述の目的を達成するために、第1面取り部170の一方の斜辺を形成する第2溝壁164の長さ、第1溝壁162の長さは等しくなるように形成される。また、第1面取り部170の他方の斜辺を形成する第4溝壁168の長さ、第3溝壁166の長さは等しくなるように形成される。さらに、第1面取り用溝壁180の長さ、第2面取り用溝壁182の長さも等しくなるように形成される。また、第3面取り用溝壁184と第4面取り用溝壁186との長さも等しくなるように形成される。

【0042】

50

第3折曲溝154は、第1折曲溝150と同様な面取りした構成ではなく、図21において示すように、直角の角部を構成するように、第1接合溝150aと第2接合溝150bとを断面V字形の溝壁で構成し、該溝壁のなす角度を45度としてもよい。

又、第4折曲溝156は、第1折曲溝150と同様な面取りした構成ではなく、図21において示すように、直角の角部を構成するように、第1接合溝150aと第2接合溝150bとを断面V字形の溝壁で構成し、該溝壁のなす角度を45度としてもよい。

【0043】

表面シート200は、第1表面板材102及び第2表面板材112を保護するとともに、これに模様を施すことで、第1柱部材12及び第2柱部材14のデザイン性を高めるために設けられる。

10

表面シート200は、第1表面板材102及び第2表面板材112を構成する、表面板部(第1表面板部140、第2表面板部142、第3表面板部144、第4表面板部146及び第5表面板部148)の表板面102a及び表板面112aに貼着される。

表面シート200は、可撓性シートにより形成され、例えば、塩化ビニル、オレフィンなどのプラスチックシート、不織布の表面に天然木の突き板単板を貼着した突き板シート、樹脂含浸紙、ポリエチレン等の樹脂層を挟んだ紙シートが用いられる。表面シート200は、その表面に木目などの印刷模様が施された柔軟な樹脂シートからなる。そして、表面シート200は、丸鋸等で切断することができる材料で構成される。

【0044】

化粧棚受部材18は、前記第1柱部材12及び第2柱部材14の構造と類似の構造を備えており、図7ないし図9に示すように製作される。

20

【0045】

第1化粧棚受部材18aは、角柱状第1柱状芯材100と、第1柱状芯材100の外表面を覆う第1表面板材102とを有している。

第1表面板材102は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第1表面板材102を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第1柱状芯材100の角部に合わせて貼着される。

第1表面板材102は、一方の長手端縁104a及び他方の長手端縁104bが合わせ面部62において、対向するように第1柱状芯材100に貼着されている。

一方の長手端縁104aと他方の長手端縁104bとの間に、凹条部28が形成される

30

一方の長手端縁104aは、向こう側の溝壁28bを構成し、他方の長手端縁104bは、手前側の溝壁28aを構成する。

第2化粧棚受部材18bは、角柱状第2柱状芯材110と、第2柱状芯材110の外表面を覆う第2表面板材112とを有している。

第2表面板材112は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第2表面板材112を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第2柱状芯材110の角部に合わせて貼着されてなる。

第2表面板材112は、一方の長手端縁114a及び他方の長手端縁114bが合わせ面部82において、対向するように第2柱状芯材110に貼着されている。

40

一方の長手端縁114aと他方の長手端縁114bとの間に、凹条部48が形成される

一方の長手端縁114aは、手前側の溝壁48aを構成し、他方の長手端縁114bは、向こう側の溝壁48bを構成する。

【0046】

第1柱状芯材100と第2柱状芯材110とは、同一の形状に形成され、例えば、剛性を有する、PB(パーティクル・ボード)、MDF(中密度繊維板:メディアム・デンシティ・ファイバーボード)、合板、及び集成材等により形成される。

化粧棚受部材18が施工される際には、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110のいずれも、それぞれ長手方向における両端部が、例えば、天側の第1棚部材16a及び地

50

側の第2棚部材16bに対して当接させて固定される主たる領域を構成する、すなわち、天側の棚支持部64及び天側の棚支持部84並びに地側の棚支持部66及び地側の棚支持部86は、第1棚部材16a及び第2棚部材16bに当接させて固定される平面の主たる領域を構成する。

【0047】

前記したように、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110は、同一の形状により構成されることから、ここでは、第1柱状芯材100の構成について説明する。

第1柱状芯材100は、天側から地側にかけて横断面が同一の形状の略角柱状体に形成される。

第1柱状芯材100を形成している略直方体において、例えば、天側の第1棚部材16aと接する一方端側には一方向たる上面120が形成され、及び地側の第2棚部材16bと接する他方端側には他方向たる下面122が形成される。これら天固定部24を構成する上面120及び下面122は、互いに略平行に形成される。

また、第1柱状芯材100を形成している該角柱状体において、第1表面板材102を接合する面には、第1側面124が形成され、第1表面板材102を接合する面であって、第1側面124とは反対側の面は、合わせ面部22を構成する第2側面126が形成される。これら第1側面124及び第2側面126は、互いに略平行に形成される。

さらに、上面120の両端部から下方方向に、かつ垂直方向で、且つ、下面122の両端部から上方方向に、かつ垂直方向で、手前側に正面128が形成され、且つ向こう側に背面130が形成される。

正面128は、第1側面124の手前側及び第2側面126の手前側と垂直に接続しており、また、背面130は、第1側面124の向こう側及び第2側面126の向こう側と垂直に接続している。これら手前側の正面128及び向こう側の背面130は、互いに略平行に形成される。

そして、第1柱状芯材100は、上面120から下面122まで、横断面形状が略同一に形成される。

【0048】

第1表面板材102及び第2表面板材112は、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110を保護するとともに、以下に説明するように、第1柱部材12及び第2柱部材14の隅角部に面取り部を設けることにより、化粧棚受部材18の美感性を高めるように、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の外表面に貼設される。

第1表面板材102及び第2表面板材112は、表面及び裏面が平面状の板体であって、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の長手方向における外表面の大部分を覆い被せるように、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の外表面に貼着される。すなわち、第1表面板材102及び第2表面板材112は、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110のそれぞれの第1側面124、第2側面126、正面128及び背面130に貼着される。

【0049】

第1表面板材102は、平面状の表板面102aと平面状の貼着板面102bとを有し、第2表面板材112は、平面状の表板面112aと平面状の貼着板面112bとを有している。

貼着板面102bは、第1柱状芯材100に貼着される面であり、貼着板面112bは、第2柱状芯材110に貼着される面である。

【0050】

第1表面板材102及び第2表面板材112は、図7において示すように、表面シート200と、表面シート200の表面に貼着された、第1表面板部140、第2表面板部142、第3表面板部144、第4表面板部146及び第5表面板部148とを有している。

第1表面板材102及び第2表面板材112は、Vカット等されてなる折曲溝によって表面板部を区画されている、第1表面板部140と、第2表面板部142と、第3表面板

10

20

30

40

50

部 1 4 4 と、第 4 表面板部 1 4 6 と、第 5 表面板部 1 4 8 とにより構成される。

第 1 表面板材 1 0 2 及び第 2 表面板材 1 1 2 を構成する表面板部は、例えば、剛性を有する、MDF（中密度繊維板：メディアム・デンシティ・ファイバーボード）、PB（パーティクル・ボード）及び合板等により形成される。

【 0 0 5 1 】

第 1 表面板部 1 4 0 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 または第 2 柱状芯材 1 1 0 の第 1 側面 1 2 4 の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第 1 表面板部 1 4 0 の手前側に並ぶ第 2 表面板部 1 4 2 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 または第 2 柱状芯材 1 1 0 の正面 1 2 8 の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第 1 表面板部 1 4 0 の向こう側に並ぶ第 3 表面板部 1 4 4 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 又は第 2 柱状芯材 1 1 0 の背面 1 3 0 の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

第 2 表面板部 1 4 2 の手前側に並ぶ第 4 表面板部 1 4 6 及び第 3 表面板部 1 4 4 の向こう側に並ぶ第 5 表面板部 1 4 8 は、第 1 柱状芯材 1 0 0 または第 2 柱状芯材 1 1 0 の第 2 側面 1 2 6 の横方向の幅の略々 4 分の 1 の大きさと略同一の大きさの略矩形に形成される。

【 0 0 5 2 】

第 1 表面板部 1 4 0 と第 2 表面板部 1 4 2 との境において、V カット等を施されて形成された第 1 折曲溝 1 5 0 が形成される。第 1 表面板部 1 4 0 と第 3 表面板部 1 4 4 との境において、V カット等を施されて形成された第 2 折曲溝 1 5 2 が形成される。

すなわち、第 1 表面板材 1 0 2 及び第 2 表面板材 1 1 2 は、平面板として準備され、それぞれ V カット等が施されて形成された溝により区画されることによって、第 1 表面板部 1 4 0、第 2 表面板部 1 4 2 及び第 3 表面板部 1 4 4 が形成される。

【 0 0 5 3 】

第 1 表面板材 1 0 2 及び第 2 表面板材 1 1 2 における第 2 表面板部 1 4 2 と第 4 表面板部 1 4 6 との境には、V カット加工等を施されて形成された第 3 折曲溝 1 5 4 が形成される。

また、第 1 表面板材 1 0 2 及び第 2 表面板材 1 1 2 における第 3 表面板部 1 4 4 と第 5 表面板部 1 4 8 との境には、V カット加工等を施されて形成された第 4 折曲溝 1 5 6 が形成される。

第 1 折曲溝 1 5 0、第 2 折曲溝 1 5 2、第 3 折曲溝 1 5 4 及び第 4 折曲溝 1 5 6 は、第 1 表面板材 1 0 2 及び第 2 表面板材 1 1 2 の貼着板面 1 0 2 b 及び貼着板面 1 1 2 b から表板面 1 0 2 a 及び表板面 1 1 2 a の方向に向けて施された、V カット加工等の切削加工により形成される。

【 0 0 5 4 】

第 1 折曲溝 1 5 0 と第 4 折曲溝 1 5 6 とは同一の構成であり、第 2 折曲溝 1 5 2 と第 3 折曲溝 1 5 4 とは同一の構成である。そして、第 1 折曲溝 1 5 0 及び第 4 折曲溝 1 5 6 と第 2 折曲溝 1 5 2 及び第 3 折曲溝 1 5 4 とは対称である。

そこで、以下において、第 1 折曲溝 1 5 0 の構成について説明する。

第 1 折曲溝 1 5 0 は、第 1 接合溝 1 5 0 a 及び第 2 接合溝 1 5 0 b が対向して連続して横並びに設けられている。

第 1 接合溝 1 5 0 a 及び第 2 接合溝 1 5 0 b は、断面略 V 字形状に形成されている。第 1 接合溝 1 5 0 a は、断面略 V 字の各一辺を形成する第 1 溝壁 1 6 2 及び第 2 溝壁 1 6 4 を有し、第 2 接合溝 1 5 0 b は、断面略 V 字の各一辺を形成する第 3 溝壁 1 6 6 及び第 4 溝壁 1 6 8 を有している。

【 0 0 5 5 】

第 2 溝壁 1 6 4 及び第 4 溝壁 1 6 8 は、第 1 折曲溝 1 5 0 の中間で直交して、略二等辺三角形の第 1 面取り部 1 7 0 を形成する。そして、第 1 接合溝 1 5 0 a を閉じて、第 1 溝壁 1 6 2 と第 2 溝壁 1 6 4 とを接し合わせて接着し、第 2 接合溝 1 5 0 b を閉じて、第 3 溝壁 1 6 6 と第 4 溝壁 1 6 8 とを接し合わせて接着すれば、第 1 面取り部 1 7 0 の底辺部分で面取りした形状を構成することができる。

そして、第1表面板部140、第2表面板部142及び第3表面板部144の表板面102a及び表板面112aに表面シート200が貼着されることで、表面シート200に貼着された表面板部(第1表面板部140、第2表面板部142及び第3表面板部144)で構成される、表面シート付き表面板材を外面に備える化粧棚受部材18が形成される。

【0056】

そして、溝底から第1表面板材102及び第2表面板材112の貼着板面102b及び貼着板面112bに向けて延びる第1溝壁162及び第2溝壁164のなす角度(θ_1)は、例えば、45度に形成される。また、第1溝壁162及び第2溝壁164と第1表面板材102及び第2表面板材112の表板面102a及び表板面112aとのなす角度(θ_1 及び θ_2)は、左右それぞれ等しくなるように形成される。

10

【0057】

第1折曲溝150は、第1溝壁162の上の溝縁162aより第1表面板部140の表板面102aに向けて第1表面板部140の表板面102aと斜交する方向に形成された、第1面取り用溝壁180を有し、且つ第3溝壁166の上の溝縁166aより第2表面板部142の表板面102aに向けて第2表面板部142の表板面102aと斜交する方向に形成された第2面取り用溝壁182とを備える。

さらに、第1面取り用溝壁180の上の端縁より表板面102aに向けてのび、第1表面板部140の表板面102aと直交する第3面取り用溝壁184と、第2面取り用溝壁182の溝端側より水平方向に向けてのび、第2表面板部142の表板面102aと平行な第4面取り用溝壁186と、第4面取り用溝壁186の端より表板面102aに向けて表板面102aに直交する方向にのびる第5面取り用溝壁188とを備える。すなわち、第3面取り用溝壁184と第5面取り用溝壁188とは、互いに略平行に形成される。

20

【0058】

第2溝壁164と第4溝壁168とは、第1折曲溝150の中間で、例えば、直交して、断面形状が略二等辺三角形の第1面取り部170を形成する。このとき、第2溝壁164と第4溝壁168とのなす角度(θ_3)は、等しくなるように形成され、いずれも、例えば、45度である。

【0059】

第1面取り部170の頂点は、第1溝壁162と第1面取り用溝壁180との交点たる溝縁162a及び第3溝壁166と第2面取り用溝壁182との交点たる溝縁166aとが、第1折曲溝150を閉着したときに交わる。

30

そして、第1折曲溝150を閉じて、第1面取り用溝壁180と第2面取り用溝壁182、第3面取り用溝壁184と第4面取り用溝壁186、第1表面板部140の貼着板面102bと第5面取り用溝壁188、それぞれを接し合わせて接着すれば、第1面取り部170の底辺部分で、面取りした形状を構成することができる。

すなわち、上述の目的を達成するために、第1面取り部170の一方の斜辺を形成する第2溝壁164の長さ、第1溝壁162の長さは等しくなるように形成される。また、第1面取り部170の他方の斜辺を形成する第4溝壁168の長さ、第3溝壁166の長さは等しくなるように形成される。さらに、第1面取り用溝壁180の長さ、第2面取り用溝壁182の長さも等しくなるように形成される。また、第3面取り用溝壁184と第4面取り用溝壁186との長さも等しくなるように形成される。

40

【0060】

第3折曲溝154は、第1折曲溝150と同様な面取りした構成ではなく、図21において示すように、直角の角部を構成するように、第1接合溝150aと第2接合溝150bとを断面V字形の溝壁で構成し、該溝壁のなす角度を45度としてもよい。

又、第4折曲溝156は、第1折曲溝150と同様な面取りした構成ではなく、図21において示すように、直角の角部を構成するように、第1接合溝150aと第2接合溝150bとを断面V字形の溝壁で構成し、該溝壁のなす角度を45度としてもよい。

【0061】

50

表面シート200は、第1表面板材102及び第2表面板材112を保護するとともに、これに模様を施すことで、化粧棚受部材18のデザイン性を高めるために設けられる。

表面シート200は、第1表面板材102及び第2表面板材112を構成する、表面板部(第1表面板部140、第2表面板部142、第3表面板部144、第4表面板部146及び第5表面板部148)の表板面102a及び表板面112aに貼着される。

表面シート200は、可撓性シートにより形成され、例えば、塩化ビニル、オレフィンなどのプラスチックシート、不織布の表面に天然木の突き板単板を貼着した突き板シート、樹脂含浸紙、ポリエチレン等の樹脂層を挟んだ紙シートが用いられる。表面シート200は、その表面に木目などの印刷模様が施された柔軟な樹脂シートからなる。そして、表面シート200は、丸鋸等で切断することができる材料で構成される。

10

【0062】

棚部材16は、図20において示すように、第1柱部材12及び第2柱部材14並びに化粧棚受部材18に調和させるために、棚板芯材410の外周面に、第1柱部材12及び第2柱部材14並びに化粧棚受部材18を構成する第1表面板材102と同様な棚表面板材412を貼着されてなる。

棚表面板材412は、表面板部430の外表面に、表面シート200と同様な棚表面シート420を貼着した、外表面材で被覆したものをを用いるとよい。

棚表面板材412は、表面板部430に形成された棚折曲溝450により区画されている。表面板部430に形成された棚折曲溝450は、第1接合溝450aと第2接合溝450bとのなす角度が90度になるように形成されている。第1接合溝450aと第2接合溝450bとを、棚板芯材410の隅角部に添わせて、棚表面シート420を折り曲げて、棚板芯材410の外表面に貼着されている。

20

この実施の形態においては、棚板芯材410は、断面方形で、表面板部430に形成された棚折曲溝450は、棚板芯材410の4つの隅角部に合わせて、4条形成されている。

而して、棚部材16は、断面方形の角柱状板体となる。

【0063】

次に、この間仕切り棚10を施工するための施工方法について説明する。図10ないし図14は、この発明にかかる間仕切り棚10の施工過程を示す分解斜視図である。

まず、間仕切り棚10の取り付けの所定の位置の第2被固定部たる地側の床面902に第1柱部材12の下端面を接地させ、第1柱部材12の凹条部28の第1柱状芯材100に第2固定部910を構成する固定部材912を接合部材950により固定することで位置決めを行う。

30

続いて、第2固定部910を構成する固定部材912の支柱取り付け板部914の面に沿って上方向に、かつ垂直方向、すなわち、固定部材912に対して対向する方向における第1被固定部たる天側の天井面900の位置に第1固定部920を構成する固定部材922を接合部材952により取り付ける。

このとき、第1固定部920を構成する固定部材922の支柱取り付け板部924と第2固定部910を構成する固定部材912の支柱取り付け板部914とは略同一平面となる。

40

そして、第1柱部材12の第1柱状芯材100の凹条部28の他方端部の上面120に第2固定部910を構成する固定部材912の支柱取り付け板部914を接した上で、接合部材950及び座金954により固定する。

さらに、第1柱部材12の第1柱状芯材100の凹条部28の一方端部の下面122に第1固定部920を構成する固定部材922の支柱取り付け板部924を接した上で、接合部材952及び座金954により固定する。

また、第1柱部材12とは棚部材16の長手方向の長さ分の間隔をあけて、第2柱部材14を床面902と天井面900との間に取り付ける。その取付方法は、前記した第1柱部材12の取り付け方法と同様である。

第2柱部材14は、前記第1柱部材12と同様に施工する。

50

【 0 0 6 4 】

次に、棚部材 1 6 を第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 との間に架け渡して固定するために、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 及び第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に棚受金具 9 5 6 を取り付ける。

棚受金具 9 5 6 は、図 2 3 において示すように、断面略 L 字形の金属製板体からなる。

棚受金具 9 5 6 は、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 及び第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に固定される、支持部 9 5 6 a と、棚部材 1 6 を受ける受け部 9 5 6 b とを有している。そして、支持部 9 5 6 a と受け部 9 5 6 b とは、直交している。

支持部 9 5 6 a は、第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 及び第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に固定されるとき、第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 及び第 2 柱部材 1 4 の内側の合わせ面部 4 2 の面より低くなるように、凹条部 2 8 及び凹条部 4 8 の深さより薄い厚さを有する。

受け部 9 5 6 b は、棚部材 1 6 の表面と揃うように、棚部材 1 6 の長手方向における両端の下面に形成された受け凹部 4 6 0 に固定される。

【 0 0 6 5 】

次に、化粧棚受部材 1 8 及び棚部材 1 6 を第 1 柱部材 1 2 の内側の合わせ面部 2 2 及び第 2 柱部材 1 4 の内側の合わせ面部 4 2 に固定する方法について説明する。

まず、第 1 化粧棚受部材 1 8 a を第 1 柱部材 1 2 の内側の床面 9 0 2 に載置し、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 を第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 に沿わせて立設する。そのとき、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の嵌合凸部 6 8 を第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 に嵌合することにより、化粧棚受部材 1 8 を第 1 柱部材 1 2 に固定する。

また、他方の第 2 化粧棚受部材 1 8 b を第 2 柱部材 1 4 の内側の床面 9 0 2 に載置し、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 を第 2 柱部材 1 4 の合わせ面部 4 2 に沿わせて立設する。そのとき、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の嵌合凸部 8 8 を第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に嵌合することにより、化粧棚受部材 1 8 を第 2 柱部材 1 4 に固定する。

【 0 0 6 6 】

そして、固定された第 1 化粧棚受部材 1 8 a の天側の棚支持部 6 4 と第 2 化粧棚受部材 1 8 b の天側の棚支持部 8 4 との上に棚部材 1 6 を載置し、第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 との間の空間に棚部材 1 6 を架け渡す。

また、棚部材 1 6 の上面（天側）に、化粧棚受部材 1 8 を載置して、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の合わせ面部 6 2 を第 1 柱部材 1 2 の合わせ面部 2 2 に沿わせて立設する。

そのとき、第 1 化粧棚受部材 1 8 a の嵌合凸部 6 8 を第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 に嵌合することにより、化粧棚受部材 1 8 を第 1 柱部材 1 2 に固定する。

また、他方の第 2 化粧棚受部材 1 8 b の合わせ面部 8 2 を第 2 柱部材 1 4 の合わせ面部 4 2 に沿わせて立設する。

そのとき、第 2 化粧棚受部材 1 8 b の嵌合凸部 8 8 を第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 に嵌合することにより、化粧棚受部材 1 8 を第 2 柱部材 1 4 に固定する。

第 1 柱部材 1 2 の凹条部 2 8 及び第 2 柱部材 1 4 の凹条部 4 8 並びに凹条部 2 8 及び凹条部 4 8 に固定された棚受金具 9 5 6 の支持部 9 5 6 a は、化粧棚受部材 1 8 によって覆われる。

【 0 0 6 7 】

これを繰り返して、向かい合う第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 との間に化粧棚受部材 1 8 を架け渡し、且つ第 1 化粧棚受部材 1 8 a と第 2 化粧棚受部材 1 8 b との間に第 1 化粧棚受部材 1 8 a を介在させることにより、第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 との間の空間を分割して、上下方向に複数段の棚が並列された間仕切り棚を設けることができる。

【 0 0 6 8 】

次に、棚を横方向に複数棹連結させる構造の間仕切り棚 1 0 について、主として図 1 5 ないし図 1 9 に基づいて、説明する。

第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 とを複数並列させて、数棹の棚を構成するときは、図 1 5 ないし図 1 9 において示すように、第 1 柱部材 1 2 の構成を変えた第 3 柱部材 1 5 を、第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1 4 との間に介在させて、第 1 柱部材 1 2 と第 2 柱部材 1

10

20

30

40

50

4との間に柵部材16を横方向に複数並列できるようにする。

【0069】

第3柱部材15は、長手方向にのびる正面部21と、正面部21に隣接して形成され、化粧柵受部材18と合わせられる合わせ面部22及び合わせ面部23と、長手方向における天側の天固定部25と、長手方向における地側の地固定部27とを有している。

第3柱部材15は、天側から地側にかけて横断面が同一の形状の、略角柱状体である。

合わせ面部22は、第3柱部材15の一方側に形成され、合わせ面部23は、第3柱部材15の他方側に形成され、合わせ面部22とは反対側に形成されている。

この実施の形態においては、第3柱部材15の正面部21は、天側から地側に亘って一様な平面である。

第1柱部材12の正面部20の表面と第3柱部材15の正面部21の表面とは、略々同じ形状であって、正面から見て左右同一の垂直面を構成する。

第3柱部材15の合わせ面部23は、正面部21と直交する平面を備え、天側から地側に亘って一様な平面を形成されている。

この実施の形態においては、第3柱部材15は、正面部21とは反対側の背面側に、背面部31を形成されている。

第3柱部材15の背面部31は、正面部21と平行な平面を備える。

【0070】

第3柱部材15は、第1表面板部140が、第4表面板部146及び第5表面板部148と同じように、手前側と向こう側とに分断されて、第1柱状芯材100が露出され、凹条部28とは別の凹条部29が形成されている。

凹条部28と凹条部29とは、同じ構造としており、凹条部29は、第1柱部材12の凹条部28又は第2柱部材14の凹条部48とは、対向する。

そして、順次、第3柱部材15を並列させ、最も端の一方の第1柱部材12の合わせ面部22と対向するように並列させ且つ最も端の他方の第2柱部材14の合わせ面部42と対向するように、第1柱部材12と第2柱部材14との間に第3柱部材15を介在させて並列させ、天井面900と床面902との間に架け渡すようにする。

【0071】

第3柱部材15は、角柱状第1柱状芯材100と、第1柱状芯材100の外表面を覆う第3表面板材103及び第4表面板材105とを有している。

第3表面板材103及び第4表面板材105は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第3表面板材103及び第4表面板材105を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第1柱状芯材100の幅方向における一方の角部に合わせて貼着される。

第3表面板材103は、平面視方形の板状体であって、その一方の長手端縁103cと第4表面板材105の他方の長手端縁105dとが合わせ面部22において、対向するように第1柱状芯材100に貼着されている。

第3表面板材103の一方の長手端縁103cと第4表面板材105の他方の長手端縁105dは、いずれも、第3表面板材103及び第4表面板材105の表面及び裏面と直交する垂直面を備えており、一方の長手端縁103cと他方の長手端縁105dとの間に、凹条部28が形成される。

第3表面板材103の一方の長手端縁103cは、手前側の溝壁28aを構成し、第4表面板材105の他方の長手端縁105dは、向こう側の溝壁28bを構成する。

第4表面板材105は、長手方向にのびるVカット等されてなる折曲溝が形成された第4表面板材105を、Vカット等されてなる折曲溝を閉じる方向に屈曲させて、前記第1柱状芯材100の幅方向における他方の角部に合わせて貼着されてなる。

第4表面板材105は、一方の長手端縁105cと第3表面板材103の他方の長手端縁103dとが合わせ面部23において、対向するように第1柱状芯材100に貼着されている。

第4表面板材105の一方の長手端縁105cと第3表面板材103の他方の長手端縁

10

20

30

40

50

103dは、いずれも、第4表面板材105及び第3表面板材103の表面及び裏面と直交する垂直面を備えており、一方の長手端縁105cと他方の長手端縁103dとの間に、凹条部29が形成される。

第4表面板材105の一方の長手端縁105cは、向こう側の溝壁29bを構成し、第3表面板材103の他方の長手端縁103dは、手前側の溝壁29aを構成する。

【0072】

第3表面板材103は、表面シート200と、表面シート200の表面に貼着された、第6表面板部141、第2表面板部142及び第4表面板部146とを有している。

第4表面板材105は、表面シート200と、表面シート200の表面に貼着された、第7表面板部143、第3表面板部144及び第5表面板部148とを有している。

10

第3表面板材103は、Vカット等されてなる折曲溝によって表面板部を区画されている、第6表面板部141と、第2表面板部142と、第4表面板部146とにより構成される。

第4表面板材105は、Vカット等されてなる折曲溝によって表面板部を区画されている、第7表面板部143と、第3表面板部144と、第5表面板部148とにより構成される。

第3表面板材103及び第4表面板材105を構成する表面板部は、例えば、剛性を有する、MDF（中密度繊維板：メディアム・デンシティ・ファイバーボード）、PB（パーティクル・ボード）及び合板等により形成される。

【0073】

20

第3表面板材103は、第6表面板部141と第2表面板部142との境において、Vカット等を施されて形成された第1折曲溝150が形成される。

第4表面板材105は、第7表面板部143と第3表面板部144との境において、Vカット等を施されて形成された第2折曲溝152が形成される。

すなわち、第3表面板材103及び第4表面板材105は、平板として準備され、それぞれVカット等が施されて形成された溝により区画されることによって、第6表面板部141、第7表面板部143、第2表面板部142及び第3表面板部144が形成される。

【0074】

第3表面板材103における第2表面板部142と第4表面板部146との境には、V

30

カット加工等を施されて形成された第3折曲溝154が形成される。

また、第4表面板材105における第3表面板部144と第5表面板部148との境には、Vカット加工等を施されて形成された第4折曲溝156が形成される。

第1折曲溝150、第2折曲溝152、第3折曲溝154及び第4折曲溝156は、第3表面板材103及び第4表面板材105の貼着板面103b及び貼着板面105bから表板面103a及び表板面105aの方向に向けて施された、Vカット加工等の切削加工により形成される。

【0075】

表面シート200は、可撓性シートにより形成され、例えば、塩化ビニル、オレフィンなどのプラスチックシート、不織布の表面に天然木の突き板単板を貼着した突き板シート、樹脂含浸紙、ポリエチレン等の樹脂層を挟んだ紙シートが用いられる。表面シート200は、その表面に木目などの印刷模様が施された柔軟な樹脂シートからなる。そして、表面シート200は、丸鋸等で切断することができる材料で構成される。

40

【0076】

この発明は、前記実施の形態の間仕切り棚に限定されることなく、この発明の思想に基づき変更することができる。

第1柱部材12及び第2柱部材14を構成する表面板部（第1表面板部140、第2表面板部142、第3表面板部144、第4表面板部146及び第5表面板部148）の厚さを変更して薄くしてもよい。

第1折曲溝150、第2折曲溝152、第3折曲溝154及び第4折曲溝156は、図

50

21に示すように、面取り構造ではなく、直角の角部を形成するように、第1接合溝150aと第2接合溝150bとを断面V字形の溝壁で構成し、該溝壁のなす角度を45度としてもよい。第2折曲溝152、第3折曲溝154及び第4折曲溝156も、第1折曲溝150と同様である。

また、図22に示すように、嵌合凸部68及び嵌合凸部88を嵌合する凹条部28及び凹条部48を、第1柱状芯材100及び第2柱状芯材110の第2側面126に切り欠き形成してもよい。

第1柱部材12の凹条部28、第2柱部材14の凹条部48及び第3柱部材15の凹条部29は、間仕切り棚10に付設される照明器具等に送電するための配線コード等を配設するための空間として利用してもよい。

【符号の説明】

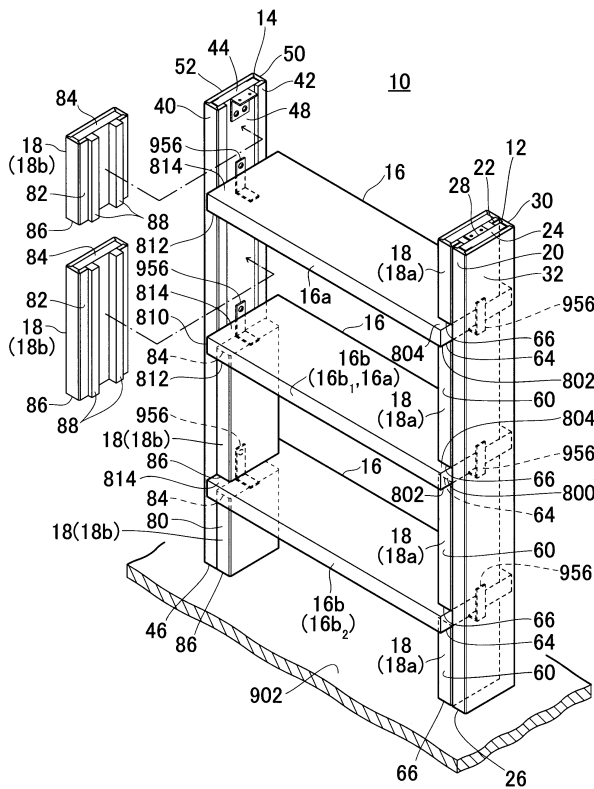
【0077】

10	間仕切り棚	
12	第1柱部材	
14	第2柱部材	
15	第3柱部材	
16	棚部材	
16a	第1棚部材	
16b, 16b ₁ , 16b ₂	第2棚部材	
18	化粧棚受部材	20
18a	第1化粧棚受部材	
18b	第2化粧棚受部材	
20, 21, 40	(柱部材の)正面部	
22, 23, 42	(柱部材の)合わせ面部	
24, 25, 44	天固定部	
26, 27, 46	地固定部	
28, 29, 48	凹条部	
28a, 29a, 48a	手前側の溝壁	
28b, 29b, 48b	向こう側の溝壁	
30, 31, 50, 70, 90	背面部	30
32, 52, 72, 92	側面部	
60, 80	(化粧棚受け部材の)正面部	
62, 82	(化粧棚受け部材の)合わせ面部	
64, 84	天側の棚支持部	
66, 86	地側の棚支持部	
68, 88	嵌合凸部	
68a, 88a	手前側の垂直面部	
68b, 88b	向こう側の垂直面部	
100	第1柱状芯材	
102	第1表面板材	40
102a, 103a, 105a	表板面	
102b, 103b, 105b	貼着板面	
103	第3表面板材	
105	第4表面板材	
103c, 104a, 105c	一方の長手端縁	
103d, 104b, 105d	他方の長手端縁	
110	第2柱状芯材	
112	第2表面板材	
112a	表板面	
112b	貼着板面	50

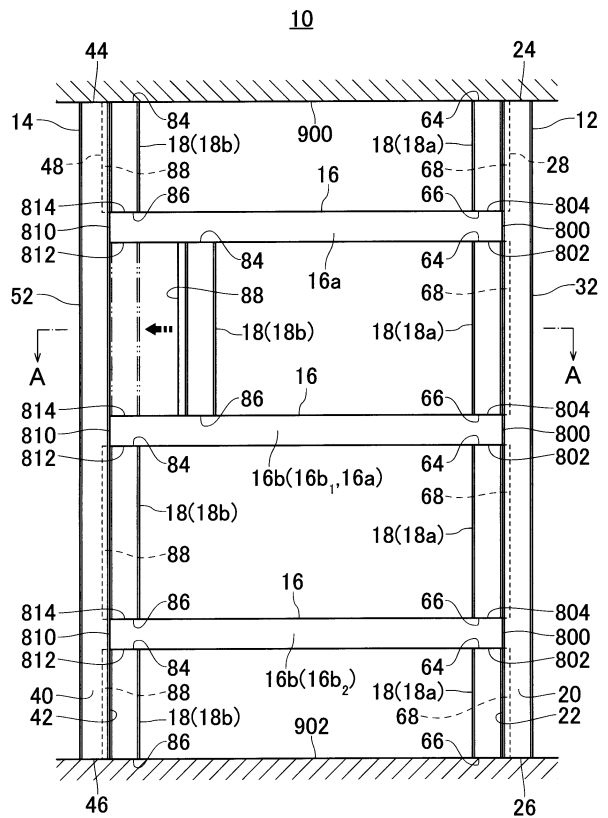
1 1 4 a	一方の長手端縁	
1 1 4 b	他方の長手端縁	
1 2 0	上面	
1 2 2	下面	
1 2 4	第1側面	
1 2 6	第2側面	
1 2 8	正面	
1 3 0	背面	
1 4 0	第1表面板部	
1 4 1	第6表面板部	10
1 4 2	第2表面板部	
1 4 3	第7表面板部	
1 4 4	第3表面板部	
1 4 6	第4表面板部	
1 4 8	第5表面板部	
1 5 0	第1折曲溝	
1 5 0 a , 4 5 0 a	第1接合溝	
1 5 0 b , 4 5 0 b	第2接合溝	
1 5 2	第2折曲溝	
1 5 4	第3折曲溝	20
1 5 6	第4折曲溝	
1 6 2	第1溝壁	
1 6 2 a , 1 6 6 a	溝縁	
1 6 4	第2溝壁	
1 6 6	第3溝壁	
1 6 8	第4溝壁	
1 7 0	第1面取り部	
1 8 0	第1面取り用溝壁	
1 8 2	第2面取り用溝壁	
1 8 4	第3面取り用溝壁	30
1 8 6	第4面取り用溝壁	
1 8 8	第5面取り用溝壁	
2 0 0	表面シート	
3 0 0 , 3 1 0	金属製補強材	
3 0 2 , 3 1 2	第1補強部	
3 0 4 , 3 1 4	第2補強部	
3 0 6 , 3 1 6	第1角部	
4 1 0	棚板芯材	
4 1 2	棚表面板材	
4 2 0	棚表面シート	40
4 3 0	表面板部	
4 5 0	棚折曲溝	
4 6 0	受け凹部	
8 0 0 , 8 1 0	対向部	
8 0 2 , 8 1 2	被支持部	
8 0 4 , 8 1 4	棚部材支持部	
9 0 0	天井面	
9 0 2	床面	
9 1 0	第2固定部	
9 1 2 , 9 2 2	固定部材	50

- 9 1 4 , 9 2 4 支柱取り付け板部
- 9 2 0 第1固定部
- 9 5 0 , 9 5 2 接合部材
- 9 5 4 座金
- 9 5 6 棚受金具
- 9 5 6 a 支持部
- 9 5 6 b 受け部

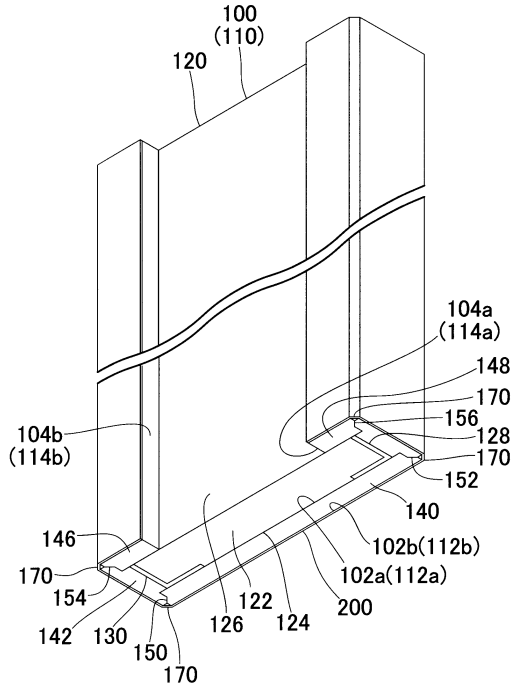
【 図 1 】



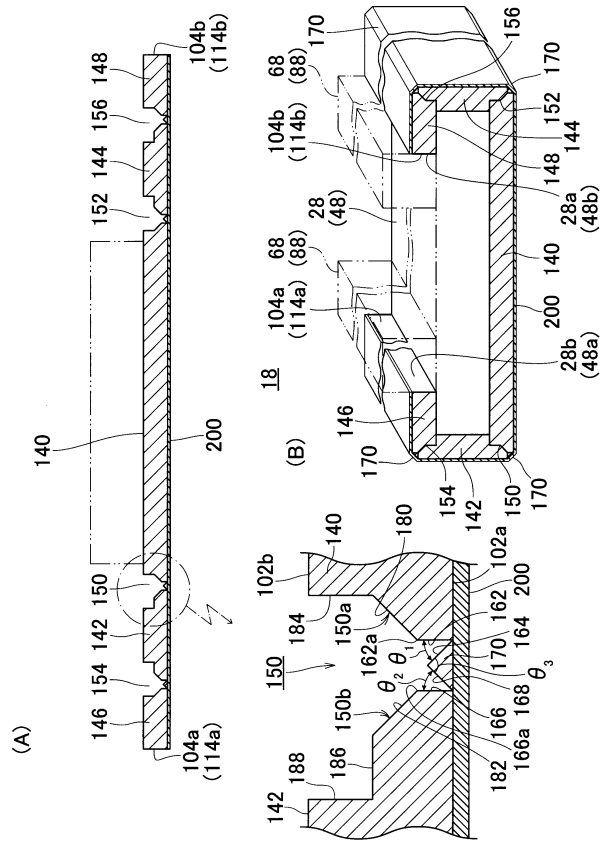
【 図 2 】



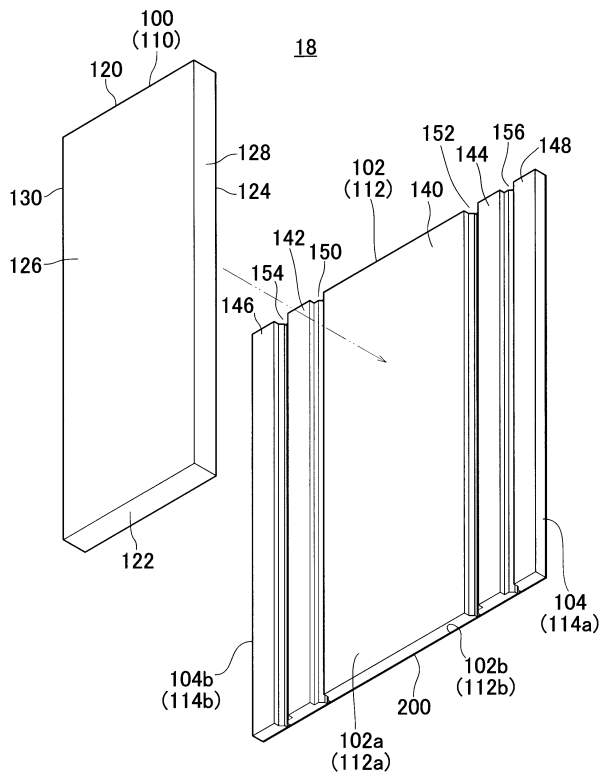
【 図 6 】



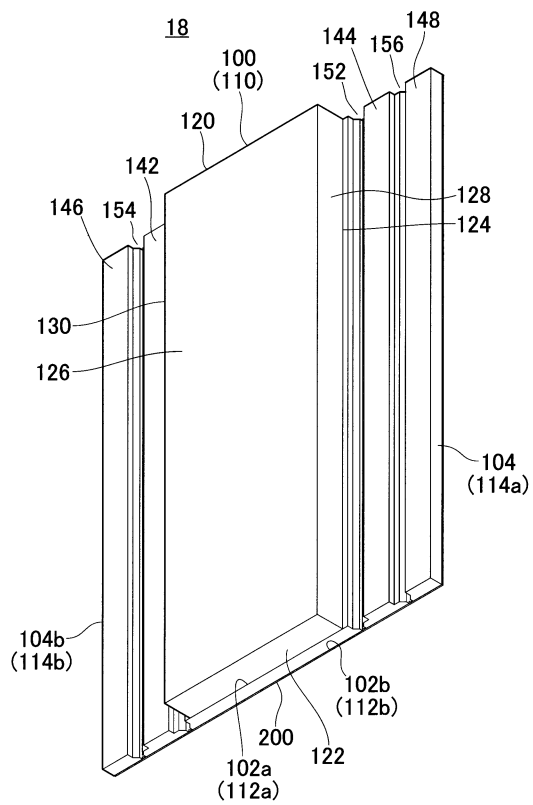
【 図 7 】



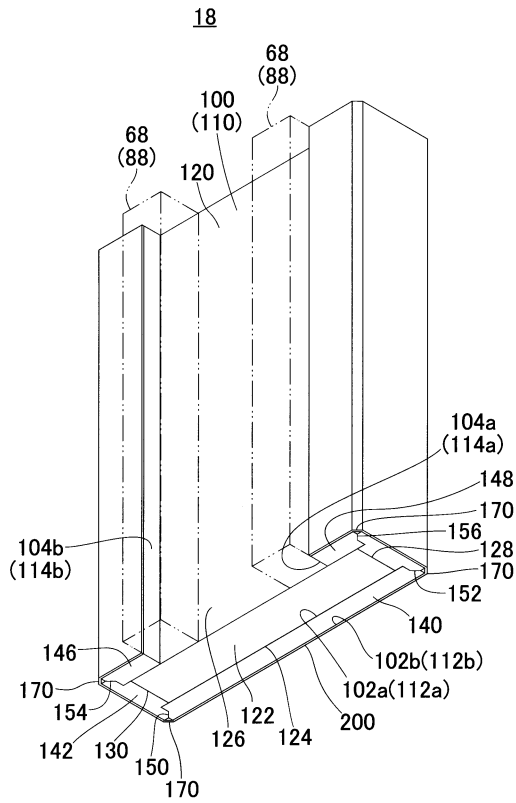
【 図 8 A 】



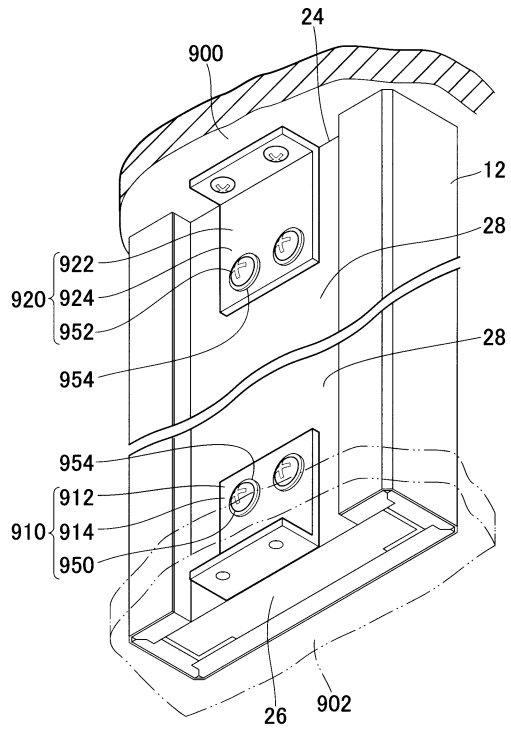
【 図 8 B 】



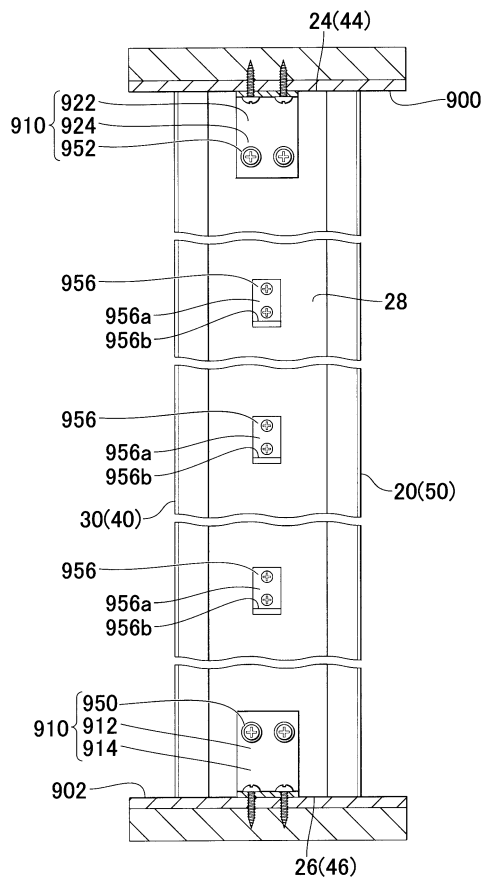
【 図 9 】



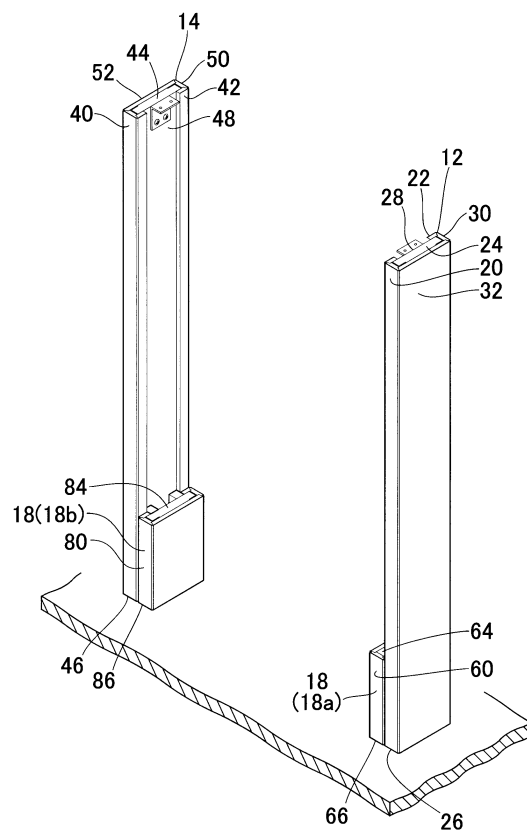
【 図 10 A 】



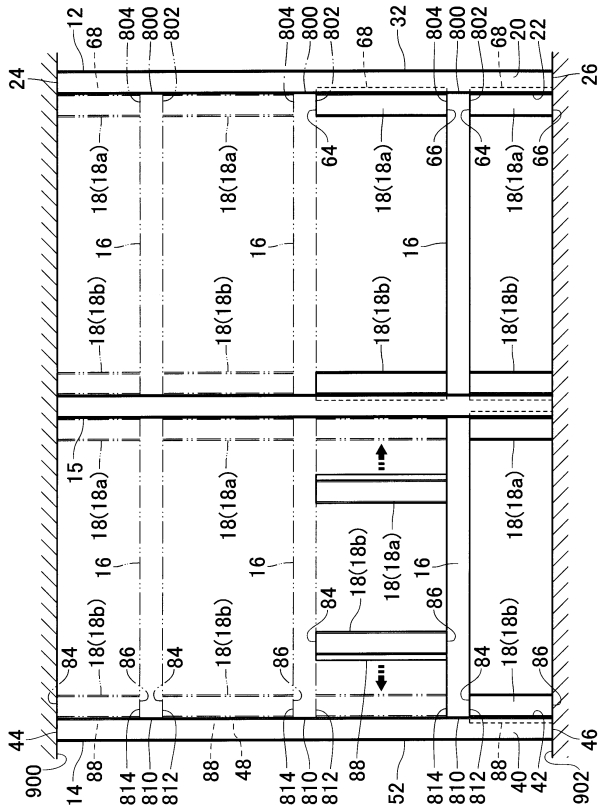
【 図 10 B 】



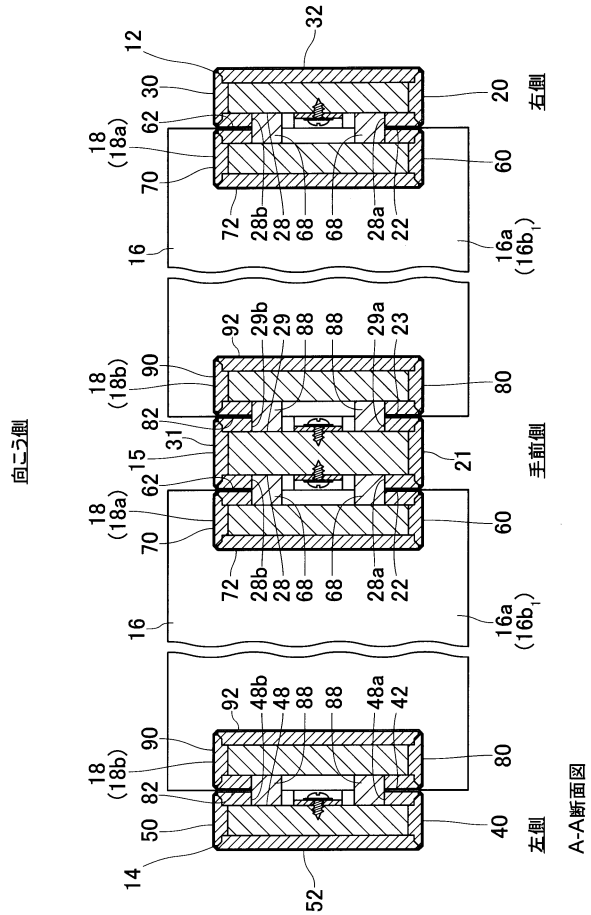
【 図 11 】



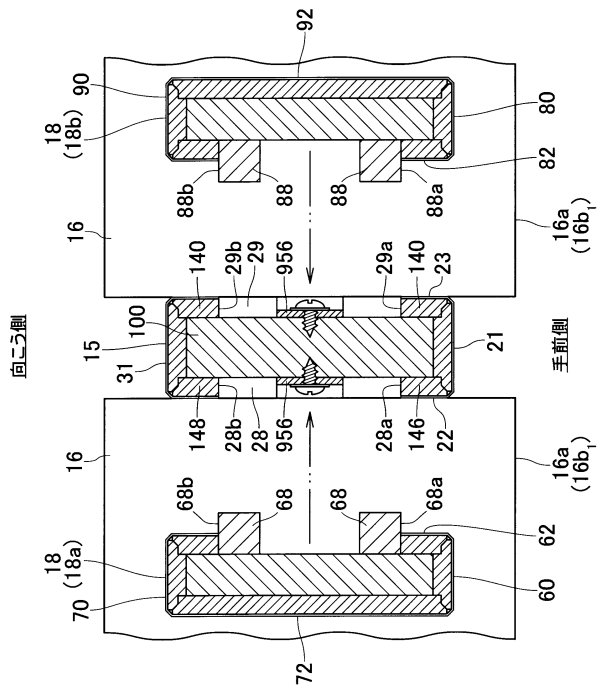
【図16】



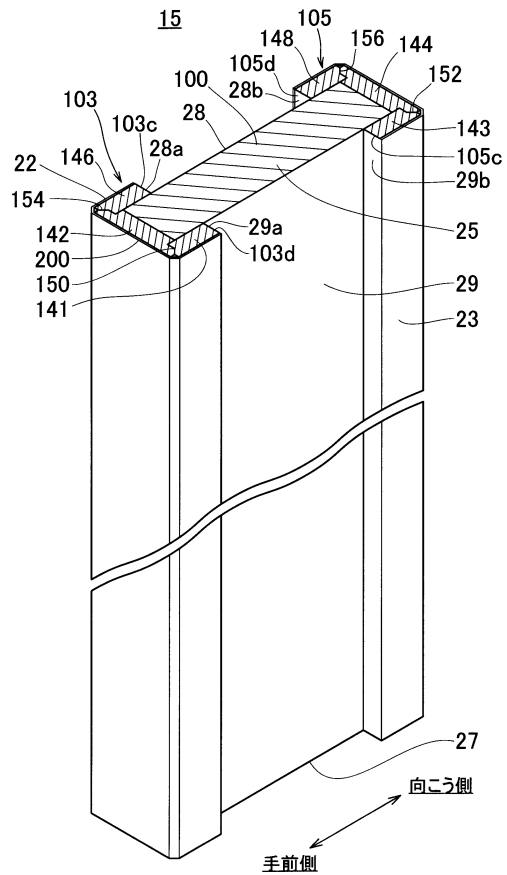
【図17】



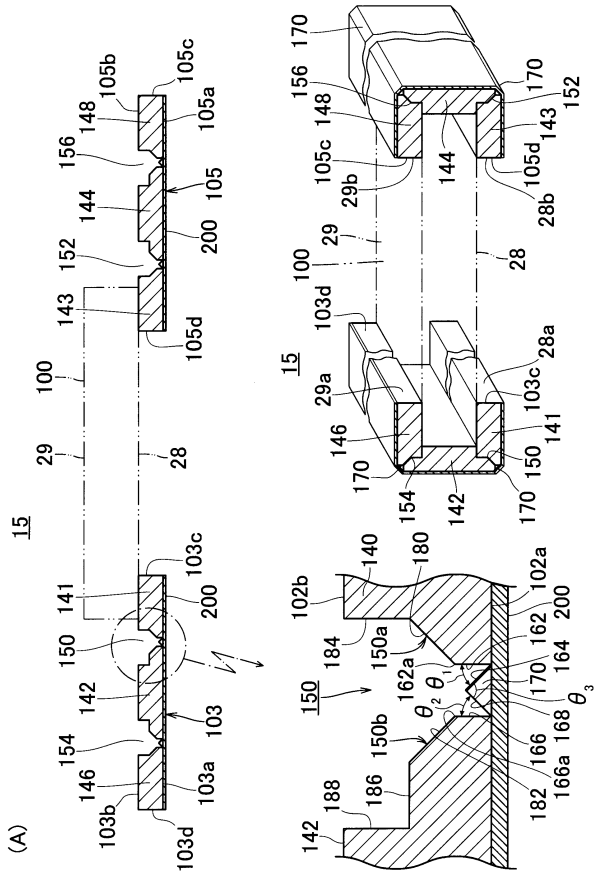
【図18】



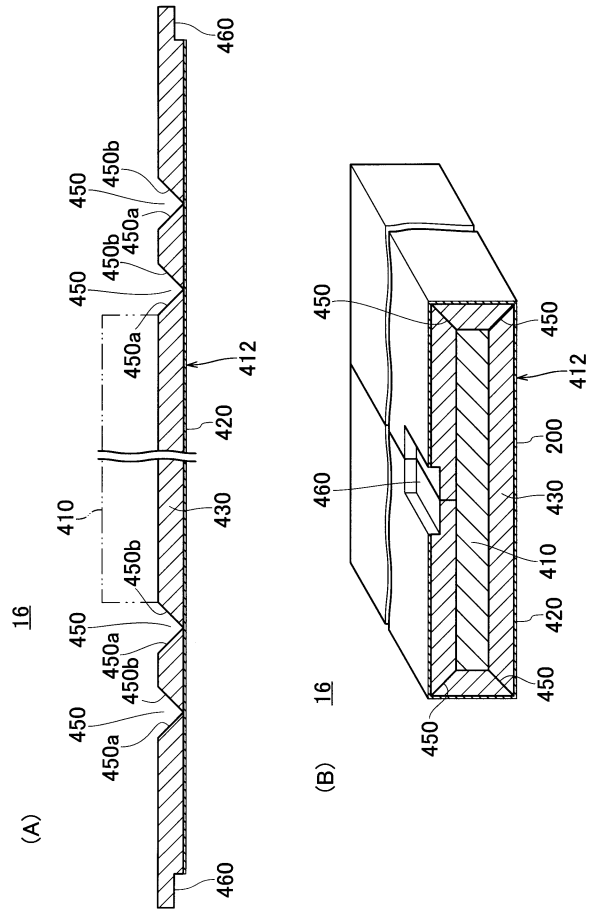
【図19A】



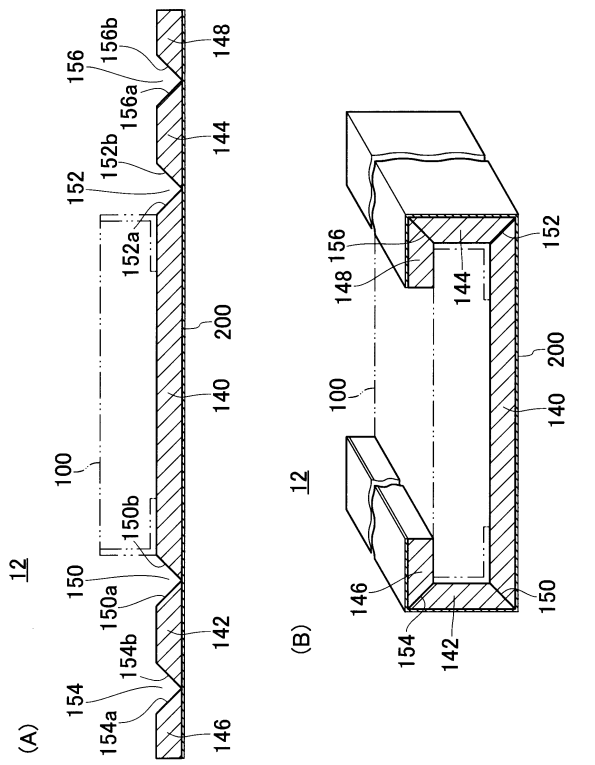
【図 19B】



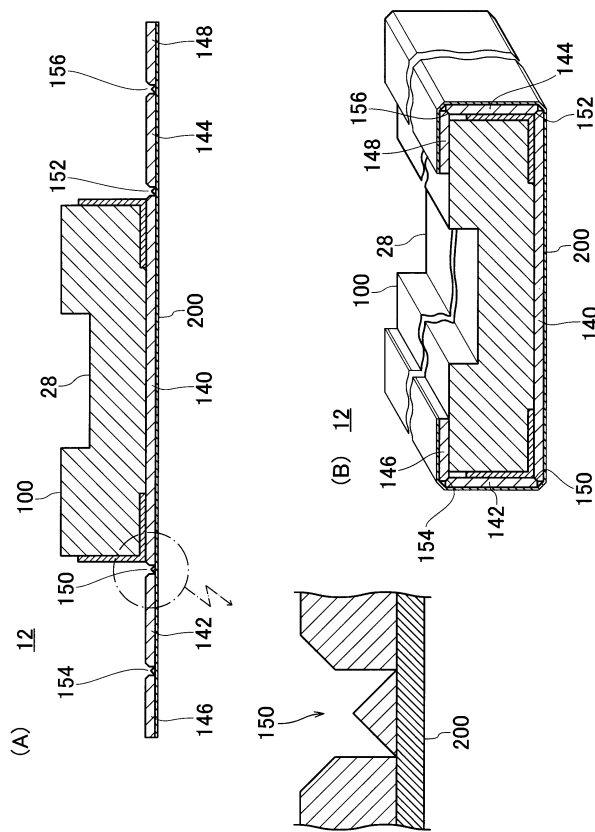
【図 20】



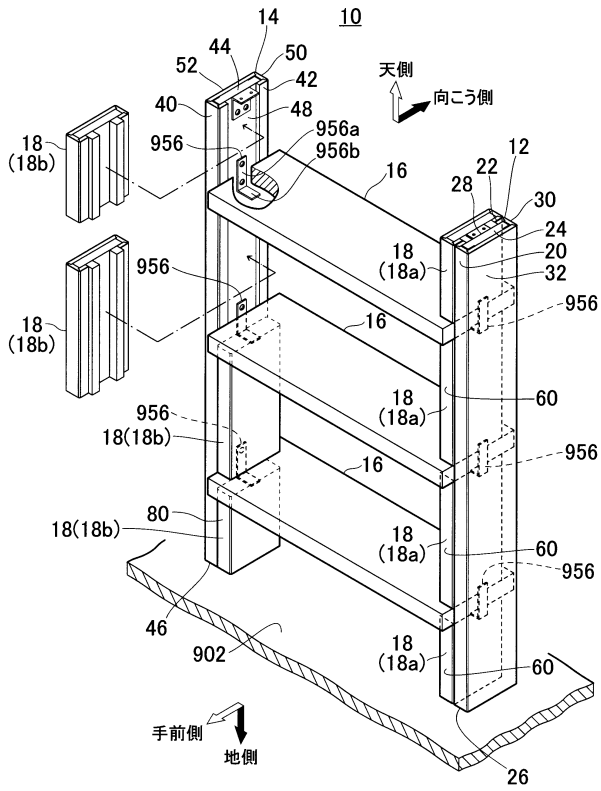
【図 21】



【図 22】



【図23】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , DB名)

E 0 4 B	2 / 7 4
E 0 4 B	1 / 5 8
E 0 4 C	2 / 3 0
A 4 7 B	6 3 / 0 0
A 4 7 B	5 7 / 1 0